

Kansai University
Library Forum

関西大学

図書館フォーラム

2017

第22号



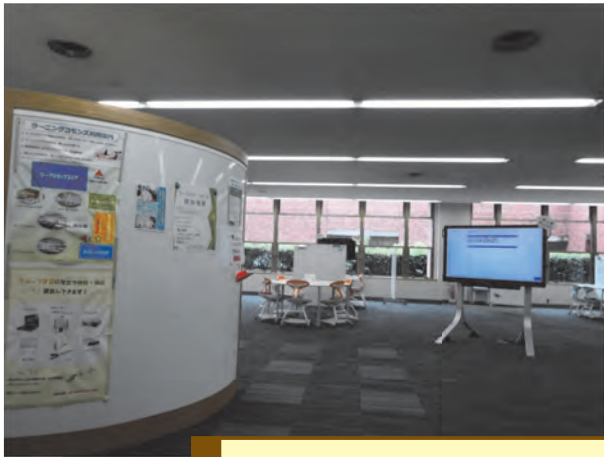
Kansai University
Library Forum

関西大学

図書館フォーラム

2017

第22号

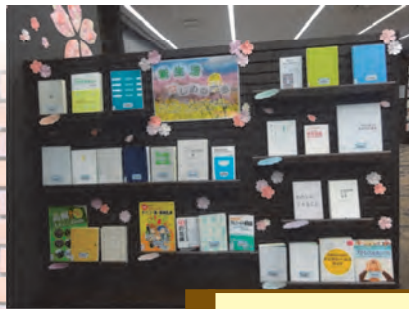


ラーニング・コモンズ



2016年度KUコアラの活動

図書館 サ・エ・ラ
2016 図書館記録写真



サテライト図書館



図書館フォーラム Library Forum

第22号
2017 目次

図書館サ・エ・ラ (2016 図書館記録写真)

巻頭感

2017 年度年頭にあたって 新井泰彦 1

書見台

世界図書館巡礼 (3) 内田慶市 4

虫ぼし抄

「ロシア建築美術週報」—人工都市の総目録 近藤昌夫 7

2016 年度基本図書購入リスト 12

関西大学所蔵「村田春門家集」(原題『藤門雑記 近代和歌』) 関西大学図書館 手紙を読む会 一

〈図書館自己点検・評価について〉 関西大学図書館自己点検・評価委員会 13

図書館談話室

平成 28 年度私情協大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～ 上田夏実 31

平成 28 年度大学図書館職員短期研修に参加して 大上良樹 35

図書館活動報告

2016 年度図書館活動報告 39

図書費予算改革検討推進専門部会の取り組みについて 徳岡久実 42

図書館出版物案内 46

『図書館フォーラム』投稿要項 47

編集後記

巻頭感 2017年度年頭にあって

図書館長 新井泰彦

桜のトンネルをくぐるように晴れやかに未来に歩む新入生を迎えて千里山での関西大学入学式は例年行われている。本年は、四月を迎えたと言うのに肌寒い日が続く、季節がゆっくりと動くを感じるまるで早春かと思まがうばかりの桜の足音をはるか遠くに聞きながらの入学式であった。とはいえ関西大学図書館も入学式とともに新たな一年を踏み出した。

本学図書館は、ここ数年電子ジャーナルの高騰化に翻弄されつつも、大学構成員のアイデア、英断・努力に基づく力強いご支援のもとに図書館規程第二条に記す大学図書館としての目的を遂げることができている。ご理解、ご支援に深く感謝いたします次第である。

さて、図書館の活動は、書籍に親しみ、書籍に囲まれ埋もれ、文字と日夜格闘する研究のイメージが多くの方の脳裏には深く刻まれているのかもしれない。その意味において、私のようなガサツなものにはこの職は務まらないと、大変なことになるものと覚悟をしたのは昨年9月のことであった。しかし、いざ実務に就くと深い教養が求められる以前に、図書館が社会の荒波に洗われ、さらわれぬように踏ん張ることがまず求められていることを思い知らされた。そのために館長には、そろばん勘定、厚かましき（それも「ど」が付くほどの厚かましき）、鈍感さが求められていることを知るに至った。幸か不幸か厚顔無恥ゆえの無教養ぶりが不思議なことに、皆様のお力添えのもとにというか、幾分哀れみをもってのご支援を賜って、何とか業務に踏みとどまることができているものと我ながら、皮肉にも自らのできの悪さに改めて感謝する今日この頃でもある。

しかし、図書館長としての初心に戻ると図書館が本来目指すものは、電子ジャーナルの問題だけでなく、関西大学の教育・研究活動の足元を支え、さらに、全学的な学術活動を結び付け、融合させ、発展させるところにあるものと信じている私にとっては、まだ、何も手が付けられていないという忸怩たる思いに打ち拉がれている今日この頃でもある。

海外の大学図書館との連携を通じた本学研究者の活動の場の広がり支援、本学図書館が所蔵する貴重な書籍・文献に立脚した研究活動の場の拡大、さらに、一昨年整備されたラーニングコモンズを利用する学生の様々な学習・研究活動の促進、リポジリーにも代表される情報発信などについてしっかりと、対応していかなければならないものと強く意識している。書籍・電子ジャーナルを管理することも大切な仕事であるものと認識しつつ、日々の管理運営に本来目指すべき活動が埋没しないように取り組まなければならないものと肝に銘じている。

図書委員会が学内の様々な意見・情報交換・交渉の場として機能するだけでなく、関西大学の学術の基礎を担い、未来に向かって大きく羽ばたくための議論の場となることを願っている。本年はその活動の元年として、取り組んで参りたく思っている。

その第一歩として、千里山の総合図書館での活動のみならず、定期的にご報告をいただいているとは言え、高槻・高槻ミュージズ・堺のそれぞれのキャンパスにおけるサテライト図書館の活動状況をつぶさに知るために、3キャンパス図書館をそれぞれに関連業務を持つ課員並びに委託業者管理担当者とともに訪問した。

関西大学図書館は、2000年より従来専任職員が担っていたカウンター業務をより図書館業務の専門性の向上・高度化・活動の充実を目指して、資格を持つ本学専任職員と最新の図書運営技術を有する専門集団とをネットワーク技術によって融合した図書館管理システムを構築してきている。この取り組みでは、大学設置基準第38条に抵触しないようにそれぞれのキャンパスサテライト図書館の施設整備、他大学との協力・連携、さらに最新の情報機器を用いた千里山の総合図書館を中核としたネットワークをもとにした高槻、高槻ミュージズ、堺キャンパスの図書館をバーチャルに一体化することによる図書業務の一体運営をはかる方針を打ち出し、それに則って活動している。この方針の構築に当たっては、協力いただいている業者との間で大学図書館としてのサービス向上の在り方に関して深く議論を繰り返し、大学図書館のカウンター業務が最新の情報・運営方法のもとに利用者に可能な限り有益な情報提供、便宜がはかれるようにという視点で行われている。

この方針のもとで、膨大な図書情報を、大学全体の図書関連の活動を最新の情報インフラによって集約させ、整理させようとしている。従来幾分各館が孤立した観も否めなかった状況を連携・統括することにより活性化させ、各館のサービスの均一化、利用者の利便性の向上はもとより、社会に広いアンテナを巡らせている専門集団がもたらす他大学での優れた取り組みの導入も目指し、さらに、各館が従来独自に実施している優れた取り組みを全学に波及させるなど、限られた専任職員だけの活動では捉えきれなかった利点を大学全体に展開しようとしている。

今回の3キャンパス図書館訪問の最大の目的は、現在、単独の業者にすべてのキャンパス図書館業務を委ねていることもあり、大学全体の図書業務情報のサテライト図書館間における共有が円滑になされているのかどうかの状況把握であった。業務委託という「丸投げ」というイメージでとらえられることもあり、経営の効率化のもとで大学全体のサービス低下につながるかのようには見えられないこともある。しかし、情報ネットワークを用いた適切なシステムを構築することによって専任職員のみで活動する以上に外部からの新しいかつ高度な生の情報をもたらされる利点がある。今回このような利点の確認、特に円滑に図書館業務がキャンパス間で均一化されていることを確認することができた。情報ネットワークの持つ力の大きさに触れて改めてその偉大

さに驚かされる次第でもあった。

一方で、詳細な情報がシステムの伝達過程で消失していること、幾分縦割り行政による弊害も確認することができた。もっとも大きな収穫は、各キャンパス図書館ならではの独自の図書情報の大学構成員への周知に関する企画を確認することができたことであり、これらの活動の全学への普及も無理なく大学全体の図書館としての組織的活動の中で可能であることを確認できたことである。

今後は、さらに進化する情報ネットワーク・機器を用いた様々な大学図書館ゆえのありかたを深化させ、本学においてその技術・システムを開発し、社会に提案、普及させることをひそかにもくろんでいる。そして、それが新しい大学図書館の一つのスタンダードとなることを願っている。

ゆっくりと動くのは、春先の季節だけにして、可能な限り迅速に図書委員会の議論・協力のもとに本来の大学図書館がなすべき活動へ邁進していかなければならないものと年頭に当たって強く思っている。

(あらい やすひこ システム理工学部教授)

世界図書館巡礼

—東西文化交渉の書籍を求めて (3) —バチカン図書館

内田慶市

筆者はこの10数年毎年夏はローマを中心にヨーロッパの図書館を巡り、筆者の研究に関わる資料の蒐集を行ってきたが、今回はバチカン図書館についてここで紹介することとする。

周知の如くカトリックの総本山のバチカン市国にあるバチカン図書館は、ヨーロッパの文献はもちろんのこと、16世紀以降中国を中心とする東アジアでのキリスト教の布教に努めた宣教師たちによって持ち帰られた漢籍をはじめ、朝鮮語、日本語、ベトナム語、満洲語、モンゴル語といった関係の文献資料も多く収められている。

この種の文献は実はバチカンではこの他、イエズス会文書館 (ARSI = Archivum Romanum Societatis Iesu、図1-2)、プロパガンダフィード (Urbaniana University、図3-4) 等にも収められている。いずれもバチカン市国内にあるので、バチカン図書館に行ったならば是非足を延ばしたい所である。

1. バチカン図書館入館への関門

バチカン図書館は、礼拝堂のあるバチカン美術館に行く途中の小さな門 (図5) から入るが、ここが一つ目の関門となる。

バチカン市民は身分証明書を見せればそこを通過できるが、入館証を持っていない外部の利用者はここではパスポートだけでは通れない場合もある。従って予め図書館関係者に連絡をしてそこまで迎えに出てもらうのがよい。



図5

そこを通過すると次に受付があるので、そこでパスポートを提示して用務を説明し入館のための臨時の通行証を発行してもらい、図書館に向かう。しばらくすると、図書館に入る門 (図6) があり、そこをくぐると中庭があり (図7)、右に図書館の入口 (図8-9) が見えてくる。



図1



図2



図3



図4



図6



図7



図 8



図 9

2. 入館証の発行

さて、以上のような「関門」を通り抜けて中に入ったら、まずは「入館証」(図10)の発行手続きだ。奥の事務室で手続きを行うが、パスポートと研究者を証明するものがあればほぼ問題はない。以前は、外務省に前もって届けるとか必要であったらしいが今はその必要はないようだ。ただ、念のために所属大学図書館の「紹介状」は持参した方が無難ではある。また、係の人の英語は必ずしもうまくないので、その点も考慮した方がよい。なお、カードは1年間有効だが、予め何回利用するかを申告、そのその回数を超えたら再発行ということになる。期限内に再発行の手続きをするが、夏休み明け(毎年9月中旬)、の最初の1週間は非常に混み合うその期間は避けた方がいいだろう。私の場合は、東洋部の主任と懇意なので休み明け以前に特別に延長手続きをしてもらっている。



図 10

3. 閲覧

さてバチカン図書館では所蔵されている資料はほぼ閲覧が可能である(図11-12)。日本や中国みたいに貴重書やレアブックは「何日前に予約」とかいったことは一切なく、当日、カタログ等で請求番号を調べてカウンターに出して後は本が出てくるのを待

つだけである。ただ隣の人の請求した本や友人が見ている本を横で見るとは許されない。のぞき込んだ途端、係の人が飛んできて注意される。この点だけは注意が必要である。



図 11

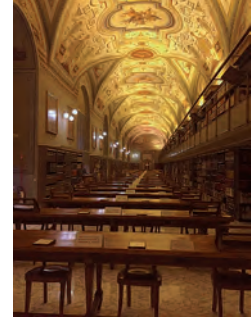


図 12

資料の閲覧に疲れたら、中庭にあるBarで一休み。洞窟のような素敵なカフェでエスプレッソもイタリア的でなかなかおしゃれかも(図13-14)。



図 13



図 14

4. バチカン図書館所蔵アジア小語種デジタル化構想

ところで、現在私たちはバチカン図書館、ローマ大学、北京外国語大学との共同プロジェクトを計画中である。その内容は、バチカン図書館に所蔵される中国と日本以外の朝鮮語、モンゴル語、ベトナム語、チベット語、満洲語といったいわゆる「アジア小語種」の文献のデジタル化である。

2015年の9月にバチカンで Ambrogio M. Piazzoni バチカン図書館副館長、東洋部主任余東博士、北京外国語大学張西平教授を交えて最初の打ち合わせが行われ、基本的な合意を得ている(図15)。

その後、2017年2月にも筆者はバチカンを訪れ、この関係の文献調査を行うと共に、館長ともお会いし(図16)今後の協定締結に向けて前向きな回答を

得ている。



図 15



図 16

だ、一般公開はされていないが、その壁画には4人の大正訪欧使節団の姿(図18)も描かれていて、バチカンと日本との関係の深さを感じさせる。



図 17



図 18

5. バチカン図書館回廊ほか

バチカン図書館閲覧室の上は実はバチカン美術館であるが、美術館内にありミケランジェロの「最後の審判」で有名な「システイーナ礼拝堂」と旧バチカン図書館回廊(図17)とは実は繋がっている。た

(うちだ けいいち 外国語学部教授)

ロシア建築美術週報

—人工都市の総目録

近藤昌夫

1. 資料概要

「建築美術週報」は、ロシア帝政末期にサンクト・ペテルブルク（以下ペテルブルク）で刊行された、予約購読制の学術雑誌である¹⁾。寸法は35.2×25.6でほぼB4サイズ。編集発行は建築家・美術家協会。1914年4月の刊行以来、1917年11月に第35号で終刊するまで、合併号もあるが、毎年度52冊刊行されている（本資料は1914年第5号、第6号が欠落）。創刊号の購読案内を見ると、「表紙、広告を除き12頁」とあるが、時に4頁や16頁の通常号もある。

内容は以下の通り。

1. 建築及び関連する美術の芸術的・技術的諸問題を対象とした論文（図版併載）、2. 建築家・美術家協会の活動や会議の報告、3. 国内外の図版付き建築・美術雑報、4. 帝立美術アカデミーの活動報告、5. 政府・市・地方自治体その他公共機関の建築関連事業の案内、6. 美術および技術関連組織の活動報告、7. 批評、8. 国内外の関連出版物の紹介、9. 建築家・美術家協会他、内外の各種コンペ情報（応募要領、審査結果）、10. 政府行政機関の関連する政令、法令（建築基準法、各種入札・契約制度）等の通知、11. 読者通信欄。

以上のように、建築物それ自体を対象を絞らず、コンプライアンスやガバナンスまで視野に入れた「建築美術週報」は、包括性・網羅性・実用性を特徴としている。

2. 建築家・美術家協会と本誌の刊行まで

編集刊行母体である建築家・美術家協会は、帝立美術アカデミー（現国立レーピン絵画彫刻建築大学）内にオフィスを構えていた。

協会は、美術アカデミーの教授及び卒業生らが発起人となって、1903年10月15日に発足した。趣旨は卒業生への仕事の斡旋だった。

中心人物はアカデミー教授P.Y. スューザル。代表作のひとつに、ネフスキー大通りに面し、現在「本の家」として知られるシンガー社社屋がある。その他発起人に、L.N. ベヌア、A.A. グルーベ、N. コズロフ、G.I. コトフ、B.N. ニコラーエフ、A.N. ポメラントツェフ、M.T. プレオブラジェンスキー、V.P. ツェイデル等、当時第一線で活躍していた建築家が名を連ねている。

たとえばL.N. ベヌアは、古典主義、ネオ・ロシア様式、バロック様式、折衷主義、アール・ヌーヴォーと、短期間にめまぐるしく様式を変えた建築家だが、個性の乏しさが指摘されるものの、高度な技能を身につけた指導者として多くの弟子を育成し、帝政末期からソビエト時代の建築界に寄与した。門下には、ネオ・ロシア様式のA. シューセフ（代表作、トレチャコフ美術館新館）、ネオ・ロシア様式から構成主義に転じて活躍したV. シューコ（同、レーニン図書館）、北方モダン様式のF. リドヴァリ（同、アストリア・ホテル）、ネオ・ルネサンス様式のM. ペレチャトコーヴィチ（同、通商産業省）等がいる²⁾。

かれらが得意とした様式の多様性から、「建築美術週報」の刊行期間が、世紀末から20世紀初頭にかけて、たとえばV. カシコフのネオ・ビザンツ様式が浸透し、構成主義等新たな前衛の様式が開花し始める、胎動の時代と重なっていることがわかる。トルケスタン地方の考古学論文の連載もプリミティヴィズムの流行と無関係ではないだろう。

そもそも職業斡旋を目的にはじまった協会の活動は、建築を中心とした学問的研究及び美術との学際的研究、実践的土木関連情報の提供等、様々な成果の蓄積が進むにつれて文化財保護へと拡張し、建築家・美術家協会はロシア初の建築遺産保護団体となった。

具体的仕事内容は、主としてペテルブルクの18-19世紀の歴史的建築物・記念碑の調査研究と保護で

ある。当時すでに多くの建物が、老朽化や火災により撤去あるいは改築の対象になっていた。協会は過去の貴重な建物の姿を、文化遺産として図面や写真とともに記録しようと考えたのである。

直ちに歴史的記念碑研究・記録専門委員会、「旧き博物館」委員会、歴史建築展覧会委員会が設置され、対象となる建物の測量が開始された。測量範囲は、1905-1907年にかけて、市内から郊外のガッチナやパーヴロフスクにも及んだ。

そして1907年、協会は「旧きペテルブルク」の調査研究及び記録を進める委員会を新たに発足させた。

記録方法を図面から写真撮影に転換することで、ペテルブルクの建築記念物の調査研究、記録、保存が迅速化し、資料の蓄積も一段と進んだ。

この活動によって1909年、「ペテルブルク歴史博物館」が創設され、ピョートル大帝時代の草創期ペテルブルクから同時代に至るあらゆる資料が記録保存されることとなった。建物全体の写真はもちろんのこと、家具調度類、食器、彫像、格子、ファサードの装飾、設計図、ドア、手すり、門扉、さらには絵画作品、版画、塑像等も保存・記録の対象となった。

収蔵物の増加に伴い、博物館が協会の分室として自立する。

協会は広報・啓蒙活動を開始。その一環として「建築家・美術家協会年報」(1906-1916)と、この「建築美術週報」(1914-1917)が刊行されたのである³⁾。

建築家・美術家協会は創刊号につきのような刊行の辞を寄せている。

建築家・美術家協会は、ここに週刊学術誌「建築美術週報」を刊行する。「建築美術週報」は、協会の活動を反映させながら、現代建築の現場を隈無く解明することになるだろう。

本協会は団体の利益を優先するものではない。協会の仕事は、アートの広範な領域を対象とし、多少なりとも建築に携わる者すべてに関与するものである。この十年間、本協会は、建築及び美術の諸問題を対象にして事業プログラムを徐々に拡張してきた。そしてその成果—美術と科学の体系的な研究、現代のアートな生活に直接コンタクトしようという姿勢、美的生活の諸現象の考察と評価、絶えず発生する諸問題の精査、現実的課題の解決—が、本誌の一刻も早い出版を促したのである。

雑誌の使命は、考古学、歴史学及び芸術哲学論文、建築土木論文、国家・社会・個人建造物の論文の掲載だが、それらは日常生活における建築上の出来事の記録である。一般的テーマの論文はもとより、一個の建築士に必要な実用的情報、文献、参考資料、実生活に密着した建築関連知識等も、この週報に満載されることになるだろう。

新雑誌の創刊にあたり、建築家・美術家協会は、この仕事により多くの読者の資産になること、読者の芸術的志向を支援する新たな力になることを願うものである。

この度蔵書となった「建築美術週報」は合本4分冊で(第1巻[1914-1915]、第2巻[1915]、第3巻[1916]、第4巻[1917])、それぞれに目次がついている。たとえば第1巻の目次は以下の通り。

[歴史と考古学の問題]、[美術の諸問題]、[技術の諸問題]、[その他の諸問題]、[現代の建築とプロジェクト]、[記念碑・彫刻]、[都市環境整備]、[病院、衛生及び保養関連事業]、[協会の活動]、[コンペティション]、[展覧会・協会の活動]、[追悼]、[関連文献]、[読者より]、[雑報]。

協会の趣旨を最も反映する項目「歴史と考古学の問題」には、たとえばレブロン、クワレンギら往年の巨匠を取りあげた作家論や、トヴェーリからツァリーツィンに到る教会建築の調査研究報告、木造農家、遺跡調査等考古学的考察、火災による石造建物の被害調査報告、墓地の管理保全、各地の教会の修復調査等が掲載されているほか、協会設立趣旨を反映して、卒業制作も公表されている。

記述対象となる用途別建築物は、公衆トイレ、温室、庭園、スタジアム、集合住宅、個人住宅、木造農家、街灯、公園、教会、オペリスク、銀行建物、劇場、コンサートホール等、実に様々である。

地域もペテルブルクに限定せず、モスクワの赤の広場にあるポクロフスキー大聖堂(聖ワシーリイ寺院)の修復や海外の建築も随時取りあげられている。

ペテルブルクに建築家・美術家協会が設立され、「建築美術週報」が刊行されたのは、ペテルブルクが単にロマノフ王朝の帝都だったからではない。遺産保存という意識は、ペテルブルクという都市それ自体の要請といっても過言ではないのである。

以下に世界文化遺産に登録されているこの街の成り立ちと特徴を、本誌の記事にも簡単に触れながら

かいつまんで紹介しよう。

3. 人工都市ペテルブルク

ペテルブルクは、250年に及ぶモンゴル支配の影響を引きずるモスクワから脱却し、ロシアを西欧化するために、ピョートル大帝が、18世紀初頭に荒涼たる沼沢地に造った人工都市である。バルト海経由でヨーロッパへ出る「窓」をうがため、内陸部のモスクワと結ぶ重商主義の要衝が必要になった。

アジア的なモスクワ・ロシアを思わせるものは極力排除し、「ヨーロッパよりヨーロッパ的な都市」の建設をゼロから目指したのである。

一連の設計に携わったのはヨーロッパ各地で活躍していた建築家たちだった。

イタリアで建築を学んだスイス人D.トレジーニは、ペトロ・パーヴロフスク聖堂やピョートル大帝の夏宮殿等を設計し、ドイツ、オランダ風にアレンジしたイタリア・バロック様式をペテルブルグにもたらした。ドイツ人建築家A.シリューテルはキーキン宮殿によって、G.マタルノービはクンストカメラによってドイツ・バロックをもたらした。イタリア人のN.ミケッティはローマ・バロックを、また、ドレスデンで活躍していたG.キヤヴェリはサクソン・バロックを帝都にもたらした。ワシーリイ島を首都にする奇抜なアイデアをピョートル大帝に進言したフランス人J.レブロンの仕事については、V.クルバートフが「レブロン of 理論的工作」(1914年、第20号及び第21号)で庭園設計を例に、その特徴を明らかにしている。

こうして、ネヴァ河口の沼地にローマとヴェルサイユが放り込まれ、攪拌されると、アムステルダムにもヴェネツィアにもどこか似ていてどこか違う、奇妙なヨーロッパ風の町が徐々に姿をあらわしはじめたのだった。

ピョートルの時代にはまだ街並みと呼べる統一感はない。ペテルブルグが、古代ローマを向こうに回したオアシス都市に喩えられ、「北のパルミラ」と呼ばれるようになるのは、大帝の遺志を継いだ女帝たちの時代を待たなくてはならなかった。

女帝たちの持ち前の美的センスが存分に発揮され、ペテルブルグは華麗で知的に、と同時に荘厳にその装いを整え、西欧近代都市の名に相応しい、気品ある均整のとれた帝都に成長していったのである。

イワン5世の娘で、ピョートル大帝の姪にあたる

アンナが、嫁ぎ先のクールラント(ラトビア西部)から呼び寄せられ、帝位に就くと、帝都の組織的開発がはじまった。

1736年と翌37年の二度の大火をきっかけに、女帝は「サンクト・ペテルブルグ建設委員会」を設置。委員会は海軍省周辺を中心とした都市改造計画を立案した。中心となったのが、ピョートル大帝の時代にイタリアに留学した建築家P.エロプキンだった。街の開発・整備は急速に進み、「ネプチューンの三又の槍」と呼ばれ、現在もこの街に個性的な表情を与えている三本の幹線道路——ネフスキー大通り、ヴォズネセンスキー大通り、中央通り(現ゴロホヴァヤ通り)——が完成したほか、それら幹線道路と交差するサドーワヤ通りが敷設され、ポクロフスカヤ広場とセンナヤ広場が造られた。モイカ川とグリボエードフ運河の堤防整備もアンナ女帝の時代に着手された。

アンナの死後、クーデターによって帝位に就いたピョートルの実の娘エリザヴェータは、宮廷をヴェルサイユに匹敵する文化とファッションの中心にしようと考えた。エリザヴェータ時代に活躍した建築家は、「宮殿アンサンブルの巨匠」とうたわれたF.ラストレリである。

ラストレリは、女帝の父が好んだバロック様式を、さらに壮麗で晴れがましいエリザヴェータ・バロックとして開花させた。代表作にスモーリヌイ女子修道院、ストロガノフ宮殿、エカチェリーナ宮殿、そして冬宮(エルミタージュ美術館)等がある。とりわけ室内装飾が見事で、その特徴はエルミタージュ美術館の大使の階段によくあらわれているが、空間に「動き、きらめき、振動が満ちている」(B.ヴィッペル)。

この時代、ラストレリに次ぐ仕事を残したのがロシア人建築家S.チェヴァキンスキーである。新オランダの木材倉庫、聖ニコライ神現聖堂等を手がけた。そのほか、ヨーロッパの建築術を習得して活躍しはじめたロシア人建築家に、海軍省を造ったI.コロボフや夏の庭園の造園に参加したM.ゼムツォフ等がいる。

次のエカチェリーナ2世は、その後34年にわたり国政に辣腕を振るった。女帝でただひとりの大帝である。

百科全書派と親交のあった啓蒙専制君主エカチェリーナは、エリザヴェータとは対照的に地味な線を好み、1762年に設置された「ペテルブルグ・モスク

ワ石造建築検討委員会」に古典主義への回帰を命じ、堅牢・功利性・美の三つを兼ね備えた都市開発を方針とした。

それを受けてK. ロッシが冬宮の北ファサードに花崗岩の宮殿河岸通りを敷設した。また、3本の水路—エカチェリーナ（現グリボエドフ）運河、モイカ川、フォンタンカ川—の河岸通りが整備され、運河壁と運河沿いの建物のバルコニーの直線、船着き場に降りる階段の曲線、石橋のフォルムが、建物と落ち着いた調和を見せるようになり、街全体に見事な統一感がうまれた。

このように、ペテルブルグの都市建設は18世紀後半になって巨大公共建築物と宮殿の建造を継続しつつ街全体の景観に配慮するようになったのである。

女帝はフランス人のV. デラモートやイタリア人のA. リナルディ、スコットランド出身のC. キャメロンを徴用し、小エルミターージュ（V. デラモート）、後に「建築家・美術家協会」が設置されることになる美術アカデミー（A. ココーリノフ、V. デラモート）、タヴリーダ宮殿（I. スタローフ）、大理石宮殿（A. リナルディ）等を次々と建設し、橋や花崗岩の河岸通りを整備することで帝都の美しさに磨きをかけた。

エカチェリーナ亡き後、皇帝たちの時代がやってくる。

エカチェリーナの息子で狂王といわれたパーヴェルは、エカチェリーナ2世から授けられた領地ガッチナで、プロイセン流の兵隊遊びにふける気儘な皇帝だった。いつしか私設軍隊の駐屯地のようになったガッチナの生活がそっくりペテルブルグに持ち込まれ、近衛兵詰所や遮断機がエカチェリーナのペテルブルグを陰に押しやり、街の様相を軍の駐屯地のように変えていった。パーヴェルが造らせたミハイル城（V. プレンナ）は、かつて要塞があった場所に建造され、巨大な二本のオペリスクには戦勝記念トロフィが飾られている。

アレクサンドル1世の初期は、祖母エカチェリーナ女帝が愛した古典主義が主流で、クワレンギが近衛騎兵馬場（現中央展示ホール）、スモーリヌイ学校を設計した。

クワレンギは、エカチェリーナ女帝に招聘されたイギリス人建築家で、女帝の時代にはエルミターージュ劇場やゴスチーヌイ・ドヴォールを設計しているが、本誌ではV. クルバートフが「クワレンギ晩年の作品」（1914年、第29号）でアレクサンドル1世

時代の仕事を紹介している。

時代の花形は壮麗な統一感を誇る巨大公共建築物で、A. ヴォロニーヒンのペテルブルグ鉱山大学やカザン聖堂、フランス人J. トマ・デュ・トモンによるワシーリイ島岬のストレルカ（砂嘴）が当時の雰囲気をも今に伝えている。

巨匠トマ・デュ・トモンの仕事については、E. パウムガルテンがその全体像を「トマ・デュ・トモン」（1914年、第7号）で明らかにしている。現在サンクト・ペテルブルク音楽院のある場所に建っていた、代表作のひとつポリショイ劇場の調査報告は貴重な成果のひとつである。[図1] ポリショイ劇場は、マリインスキー劇場とともに、船員と外国人の居住区だったコロムナ地区を芸術のメッカに転換する大きなきっかけとなる象徴的建物となった。

アレクサンドル1世の晩年とニコライ1世の治世に活躍したのは、アンピール（皇帝）様式を得意とするK. ロッシである。ロッシの発案によって、天使像を戴くアレクサンドル円柱（O. モンフェラン）の周囲を、旧参謀本部、冬宮、そして近衛連隊本部（A. ブリュローフ）がゆったりと包み込む重厚な宮殿広場が建設され、威風堂々とした新たな中心が帝都に誕生した。

1820-30年代にはロシア人建築家V. スターツフが活躍した。パヴロフスキー連隊近衛兵宿舎はマルス広場に威厳を与え、聖三位一体教会と救世主変容教会は巨大建築物のアンサンブルをなし、街の中心に欠かせないアクセントとなった。

ニコライ1世のこれ見よがしの壮麗さと晴れがましきは、宮殿広場の近衛学校（A. ブリュローフ）、イサーク広場のマリインスキー宮殿（A. シタケンシュナイダー）、新エルミターージュ（L. フォン・クレンツェ）等にあらわれている。ネオバロック風の



図1

ペロセルスキー・ペロゼールスキー公爵宮殿（A. シタケンシュナイダー）、ネオルネッサンス様式のモスクワ駅（K. トン）等に見られるように、様式の芸術的傾向あるいは装飾性が強まったことがこの時代の特徴である。

アレクサンドル2世とアレクサンドル3世の時代の建築は、懐古趣味とナショナリズムを特徴としている。19世紀後半になると、人口増加、産業の振興、鉄道等の大量輸送手段の普及によって、都市開発は工場建設とともに郊外へと広がった。

いまやロンドン、パリ、ベルリンに次ぐヨーロッパ第4の大都市に成長した百万都市ペテルブルグにとって「西欧」もまた変容してゆく。

先進的文明を象徴し、国力を誇示するモニュメンタルな大型西欧建築が女帝時代の「西欧」であったとすれば、「西欧」が日常化した皇帝たちの時代には、駅、劇場、銀行、百貨店、博物館等の公共建築に「西欧」が浸透していった。つまり憧憬だった「西欧」が、デザインや装飾として日々の暮らしに溶け込み、あるいは流通や産業構造、交通等のインフラとして近代都市の共通基盤に広く根を張ったのである。

こうして「西欧」が日常化すると、今度はナショナリズムの涵養に意識が向けられるようになる。建築は「ロシア様式」を模索しはじめ、国立歴史博物館、トレチャコフ美術館等、ネオ・ロシア様式の建物が古都モスクワに建てられるようになる。そうしたなか、ペテルブルグに建立されたのがスパース・ナ・クラヴィー（血の救世主教会）と呼ばれるキリスト復活聖堂（I. マカロフ、A. パルランド）だった。

19世紀末から20世紀初頭にかけて建造されたこの教会は、モスクワの赤の広場にある聖ワシリー寺院（濠の上のポクロフスキー大聖堂）のコピーである。教会は、外観が中世ロシアへの回帰をアピールしているだけでなく、内部を埋め尽くすモザイクも平面への回帰を示している。ルネサンス以降、西欧が3次元へ、つまり平面からの脱却を目指したことへのアンチ・テーゼであり、「西欧」を志向したペテルブルグにあって、2次元を異化した象徴的な建物だといえるだろう⁴⁾。

述べたような街ゆえに、本誌「建築・美術週報」が産み落とされたのである。

4. 動乱期を反映する雑誌

冒頭で4頁の号もあると書いたが、第1次世界大

戦の影響である。ロシアは7月31日に総動員令を発令したが、翌月中旬から雑誌は10週に渡り4頁の紙面構成が続く。12頁に戻るのは12月に入ってからである。第30号（10月22日発行）で編集部は、紙不足や同僚の出征等、困難な問題に直面し、規模の縮小は避けがたいが、刊行は継続する、今後は当初の分量を回復し、読者の期待に応えたいと書いている。

また、革命前夜の1917年になると4月以降第35号（終刊号）まで合併号が続く。第10～14合併号の冒頭でO.R. ムンツ（代表作、ヴォルホフ水力発電所）が、論文「自由の曙と永遠の芸術」で2月革命後に成立した臨時政府を支持しているが、「建築美術週報」は、10月革命と同時に終刊を迎えたのだった。

「建築とは、歴史や民族文化を映す鏡である」（ムラギルディン）といわれるが、本誌それ自体が帝政末期から社会主義革命に到る激動のロシアを映す資料として文化学的にも興味深い視点を提供している。

レニングラード包囲戦後の復興に本誌が果たした役割は少なくなかっただろう。ペテルブルクとペテルブルグっ子の結びつきの強さを垣間見る思いがする⁵⁾。

注

小論執筆にあたり、T. Лаппа氏より注3)の資料提供を受けた。記して謝意を表す。

- 1) 1914年8月31日、ニコライ2世はドイツと敵対したため、ロシア風にペトログラードと改名したが、ここではペテルブルクを用いる。
- 2) ムラギルディン『ロシア建築案内』TOTO出版、2002年。
- 3) Петрова Л.И. Городской музей и власть. 1880-е - 1930-е годы. СПб. 2015.
- 4) 主に以下の文献を参照した。Города России: энциклопедия. Гл. ред. Г.М. Лаппо. М., 1994. Shvidkovsky D. St. Petersburg. Abbeville Press Publishers, 1996.
- 5) 筆者の関心は、文学都市テキストに描かれた都市と人間の関係にある（『散策探訪コロムナ ペテルブルク文学の源流』未知谷）。今回貴重な一次資料を収蔵していただいたことに謝意を表するとともに、本資料が広く利用されることを願う。

（小論はJSPS科研費JP17K02631の助成を受けたものである。）

（こんどう まさお 外国語学部教授）

2016年度基本図書購入リスト

1 19世紀後期国際法学・国際私法学重要雑誌コレクション

(1) JOURNAL DU DROIT INTERNATIONAL (JOURNAL CULNET). vol. 1-41

(2) REVUE DE DROIT INTERNATIONAL ET DE LÉGISLATION COMPARÉE.

Series 1 vol. 1-17

Series 2 vol. 1-15

[グローバルな自由貿易体制の発展と国際平和への関心の高まりを背景として、国際法学・国際私法学が飛躍的に発展した19世紀後期の専門雑誌のコレクションである。関西大学図書館では、(1)のvol. 55-84(一部欠号あり)および(2)のSeries 1 vol. 18-22, 24のみ所蔵していたが、今回の購入により、(1)はその大部分を、(2)はその全てを所蔵することとなった。]

2 時事新報 大正期復刻版

[1882(明治15)年福澤諭吉によって創刊され、明治中期から大正前期に日本の新聞界を牽引した日刊新聞『時事新報』の復刻版である。関西大学図書館では、今回の購入により明治期から大正期まで所蔵することとなった。]

3 Index Islamicus vol. 8-30

[1906年以降に発表されたイスラム文化や歴史、宗教、政治、言語、芸術に関する雑誌記事、書籍、研究論文、書評のインデックス・抄録情報が収録されている。関西大学図書館では、今回の購入によりvol. 1-30まで所蔵することとなった。]

4 通産政策史資料 オンライン版 第2回配本

「関係編纂資料」、第3回配本「一次史料」「関係編纂史料」、第4回配本「一次史料」

[戦前・戦後における産業政策全般の多様な実相を記録した一次史料と、関係機関による編纂資料を集成したもの。関西大学図書館では、今回の購入により第1~3回配本の「一次史料」「関係編纂史料」、第4回配本の「一次史料」を所蔵することになった。]

5 Asian Laws - South East Asia

[1850年~1945年に刊行されたアジア法に関する書籍、判例集、学位論文など精選して収録した資料である。関西大学図書館では、すでにインドシナおよびタイの資料を所蔵しており、今回の購入によって、現・ミャンマー、ヴェトナム、一般の資料も所蔵することとなった。]

図書館自己点検・評価について

2016年度

□ 目 次 □

自己点検・評価関係資料

- 1 基礎データ（2016年度）…………… (1)
- 2 2016年度図書館自己点検・評価委員会名簿…………… (16)
- 3 関西大学図書館自己点検・評価委員会規程…………… (17)

自己点検・評価関係資料

1 基礎データ (2016 年度)

(1) 入館者に関する統計
a 過去5年間の館別・月別開館日数
b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数
c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数
d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数 (総合図書館)
e 過去5年間の地域市民の図書館利用申請者数 (総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館)
(2) 図書資料の利用に関する統計
a 館別・月別図書利用者数および利用冊数
b 月別入庫検索者数 (総合図書館)
c グループ閲覧室、ラーニング・commons利用状況 (総合図書館)
d 文献複写サービス
e 図書館間相互利用件数
f 参考業務 (総合図書館)
g 利用指導
h 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル
i 過去5年間の文献・情報データベース検索回数
j キャンパス間相互利用件数 (予約取寄せ)
k 利用者用パソコン設置台数
(3) 蔵書に関する統計
① 収書状況
a 図書資料の所蔵数 (2016年度末現在)
b 過去5年間の図書の受入数
c 図書資料異動状況
d 雑誌・新聞受入種類数
② 分類別所蔵図書冊数 (日本十進分類法による)
③ 分類別所蔵雑誌種類数 (日本十進分類法による)
④ 図書費執行額5年間の推移
(4) その他関連統計等
① 過去5年間の図書館職員
② 学生の閲覧座席数 (2017年4月1日現在)
③ 10年間の展示会テーマと会期
④ 資料の出陳・放映 (学外からの依頼分)

(1) 入館者に関する統計

a 過去5年間の館別・月別開館日数

館	月	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		総合図書館	2012年度	30 (6)	31 (7)	29 (4)	31 (6)	19 (0)	25 (2)	31 (5)	26 (4)	25 (5)	25 (4)	16 (0)	20 (0)
	2013年度	30 (5)	31 (7)	30 (5)	31 (5)	19 (0)	25 (3)	31 (5)	26 (4)	25 (5)	26 (4)	16 (0)	20 (0)	310 (43)	
	2014年度	30 (5)	31 (7)	30 (5)	31 (5)	17 (0)	27 (3)	30 (4)	26 (5)	26 (4)	26 (4)	17 (0)	19 (0)	310 (42)	
	2015年度	30 (4)	31 (8)	30 (4)	31 (5)	17 (0)	27 (3)	31 (4)	26 (4)	25 (5)	24 (5)	23 (0)	23 (0)	318 (42)	
	2016年度	30 (4)	31 (8)	29 (3)	31 (5)	16 (0)	25 (2)	31 (5)	26 (5)	24 (4)	24 (5)	16 (0)	21 (0)	304 (41)	
高槻 キャンパス 図書館	2012年度	24	24	25	25	17	20	26	22	20	21	16	20	260	
	2013年度	25	24	25	26	15	21	26	22	20	22	16	20	262	
	2014年度	25	24	25	26	13	21	26	21	22	22	17	19	261	
	2015年度	25	23	26	27	13	20	27	22	21	20	23	23	270	
	2016年度	26	23	26	26	16	20	26	22	20	20	22	22	269	
ミューズ 大学図書館	2012年度	24	24	25	25	17	20	26	22	20	21	16	20	260	
	2013年度	25	24	25	26	15	21	26	22	20	22	16	20	262	
	2014年度	25	24	25	26	13	21	26	21	22	22	17	19	261	
	2015年度	25	23	26	27	13	20	27	22	21	20	23	23	270	
	2016年度	26	23	26	26	10	16	26	22	20	20	22	22	259	

堺キャンパス 図書館	2012年度	24	24	25	25	17	20	26	22	20	21	16	20	260
	2013年度	25	24	25	26	15	21	26	22	20	22	16	20	262
	2014年度	25	24	25	26	13	21	26	21	22	22	17	19	261
	2015年度	25	23	26	27	13	20	27	22	21	20	23	23	270
	2016年度	26	23	26	26	16	20	26	22	20	20	22	22	269

注1 総合図書館の下段（ ）は内数で、授業期間中の日曜・祝日開館日数を示す。高槻・ミューズ・堺の各図書館は日曜・祝日は休館。

注2 夏季一斉休業期間中の休館 8月11日～8月20日

注3 学園祭による臨時休館 11月1日～4日

注4 冬季一斉休業期間中の休館 12月26日～1月6日

注5 入学試験等による休館 1月31日～2月8日、3月2日～3月4日

注6 年度末休館 3月29日～3月31日

b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数

所属		館	総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館
学部 学生	法 学 部	入 館 者 数	105,365	14	363	102
		平均入館回数	33.4	0.0	0.1	0.0
	文 学 部	入 館 者 数	102,719	7	167	79
		平均入館回数	30.8	0.0	0.1	0.0
	経 済 学 部	入 館 者 数	94,391	7	118	77
		平均入館回数	29.9	0.0	0.0	0.0
	商 学 部	入 館 者 数	74,654	0	66	50
		平均入館回数	24.0	0.0	0.0	0.0
	社 会 学 部	入 館 者 数	75,499	2	225	168
		平均入館回数	22.0	0.0	0.1	0.0
	政策創造学部	入 館 者 数	43,708	1	89	18
		平均入館回数	27.3	0.0	0.1	0.0
	外国語学部	入 館 者 数	15,042	0	19	1
		平均入館回数	21.2	0.0	0.0	0.0
	人間健康学部	入 館 者 数	2,504	22	8	26,393
		平均入館回数	1.8	0.0	0.0	18.1
	総合情報学部	入 館 者 数	1,340	27,226	1,174	30
		平均入館回数	0.6	12.2	0.5	0.0
	社会安全学部	入 館 者 数	1,369	0	16,476	7
		平均入館回数	1.1	0.0	14.1	0.0
システム理工学部	入 館 者 数	62,316	2	27	7	
	平均入館回数	27.8	0.0	0.0	0.0	
環境都市工学部	入 館 者 数	35,845	3	25	6	
	平均入館回数	24.2	0.0	0.0	0.0	
化学生命工学部	入 館 者 数	44,362	0	83	34	
	平均入館回数	29.5	0.0	0.1	0.0	
学部合計		入 館 者 数	659,114	27,284	18,840	26,972
		平均入館回数	22.9	1.0	0.7	0.9
大学院学生		入 館 者 数	35,473	892	1,253	329
		平均入館回数	19.9	0.5	0.7	0.2
専任 教職員	大 学 教 員	入 館 者 数	6,007	328	610	198
		平均入館回数	8.0	0.4	0.8	0.3
	高 中 幼 教 諭	入 館 者 数	43	0	30	0
		平均入館回数	0.2	0.0	0.1	0.0
	事 務 職 員	入 館 者 数	1,414	17	36	49
平均入館回数		2.8	0.0	0.1	0.1	
上記を除く教職員		入 館 者 数	9,456	320	304	127
校 友		入 館 者 数	14,729	32	1,299	544
そ の 他		入 館 者 数	21,024	326	4,747	352
合 計		入 館 者 数	747,260	29,199	27,119	28,571

注1 平均入館回数は、入館者数を利用対象者数（2015年5月1日現在）で除した1人当たりの数値である。

注2 「その他」は地域市民、科目等履修生、聴講生、留学生別科、協定大学の専任教員・大学院学生、他機関からの利用者。

c 館別・月別・資格別入館者数および1日当り平均入館回数

館・資格 月	総合図書館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	71,756	4,725	2,169	1,151	1,985	81,786	3,085.0	394.0
5	74,047	3,958	1,861	1,539	2,050	83,455	3,476.9	435.8
6	76,595	4,107	1,824	1,505	2,269	86,300	3,274.8	384.7
7	117,560	3,825	1,656	1,599	2,102	126,742	4,503.5	1,029.4
8	8,653	1,366	701	842	891	12,453	778.3	—
9	24,027	2,344	1,236	1,178	1,586	30,371	1,285.6	401.5
10	64,268	3,886	1,810	1,780	2,677	74,421	2,687.8	370.0
11	62,007	3,202	1,568	1,255	2,209	70,241	3,118.6	326.4
12	52,300	2,932	1,400	1,209	1,753	59,594	2,892.5	436.0
1	88,050	2,976	1,203	1,139	1,736	95,104	4,748.7	975.8
2	10,003	1,022	666	657	777	13,125	820.3	—
3	9,848	1,130	826	875	989	13,668	683.4	—
合 計	659,114	35,473	16,920	14,729	21,024	747,260	2,735.8	543.2
館・資格 月	高槻キャンパス図書館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	3,872	83	96	5	21	4,077	156.8	—
5	3,331	89	57	4	41	3,522	153.1	—
6	3,472	92	78	9	51	3,702	142.4	—
7	5,163	101	83	0	54	5,401	200.0	—
8	44	40	25	3	4	116	8.9	—
9	1,097	79	32	0	11	1,219	61.0	—
10	2,683	122	77	4	37	2,923	112.4	—
11	2,433	99	85	0	41	2,658	120.8	—
12	1,754	64	57	0	26	1,901	95.1	—
1	3,331	73	45	2	23	3,474	173.7	—
2	61	28	10	5	4	108	4.9	—
3	43	22	20	0	13	98	4.5	—
合 計	27,284	892	665	32	326	29,199	108.5	—
館・資格 月	ミューズ大学図書館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	2,233	147	93	176	615	3,264	125.5	—
5	2,286	122	133	134	536	3,211	139.6	—
6	2,247	135	83	140	486	3,091	118.9	—
7	3,543	161	85	115	490	4,394	162.7	—
8	135	40	35	33	164	407	40.7	—
9	719	70	81	47	361	1,278	63.9	—
10	1,439	107	100	87	372	2,105	81.0	—
11	1,587	122	86	133	347	2,275	103.4	—
12	1,347	91	82	72	376	1,968	98.4	—
1	2,575	136	81	102	315	3,209	160.5	—
2	396	55	63	120	357	991	45.0	—
3	333	67	58	140	328	926	42.1	—
合 計	18,840	1,253	980	1,299	4,747	27,119	109.2	—

館・資格 月	堺キャンパス図書館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	2,468	38	45	25	66	2,642	101.6	-
5	2,476	41	38	34	42	2,631	114.4	-
6	2,743	29	43	31	30	2,876	110.6	-
7	4,748	37	54	30	32	4,901	181.5	-
8	148	5	13	24	15	205	15.8	-
9	914	14	28	47	19	1,022	51.1	-
10	2,766	28	41	76	41	2,952	113.5	-
11	2,899	34	27	71	28	3,059	139.0	-
12	2,527	42	29	46	14	2,658	132.9	-
1	4,656	41	27	57	32	4,813	240.7	-
2	344	10	15	58	20	447	20.3	-
3	283	10	14	45	13	365	16.6	-
合 計	26,972	329	374	544	352	28,571	106.2	-

注1 「その他」は地域市民、科目等履修生、聴講生、留学生別科、協定大学の専任教員・大学院学生、他機関からの利用者。

d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）

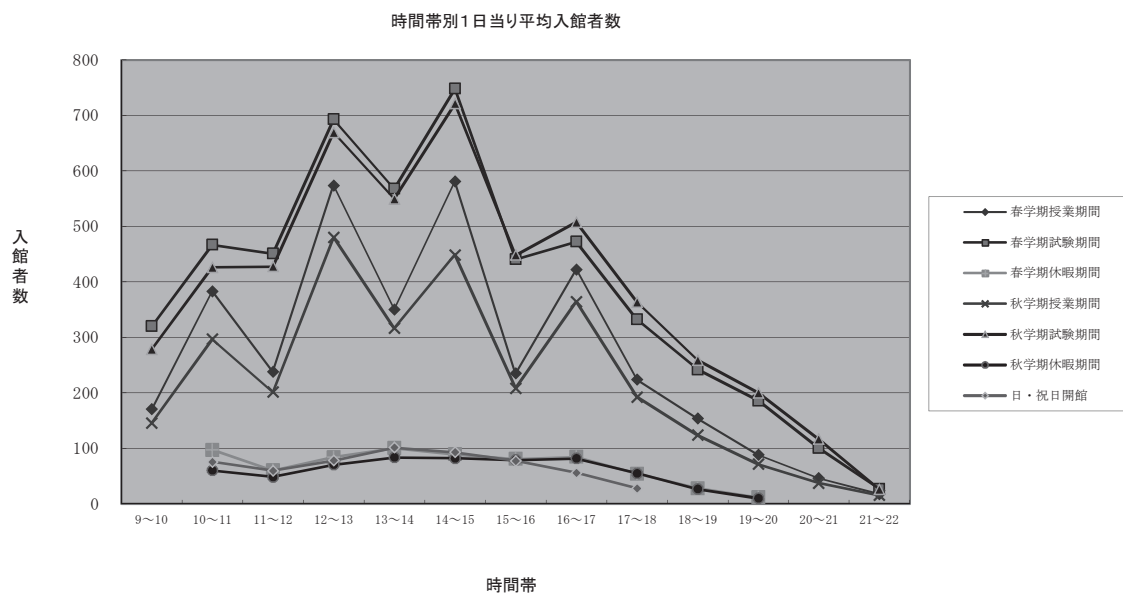
区 分	時間帯	9～10	10～11	11～12	12～13	13～14	14～15	15～16	16～17	17～18	18～19	19～20	20～21	21～22	合 計		
春 学 期	授業期間	総入館者	14,300	32,189	19,964	48,179	29,438	48,836	19,740	35,473	18,805	12,906	7,414	3,871	1,454	292,569	
		1日平均	170.2	383.2	237.7	573.6	350.5	581.4	235.0	422.3	223.9	153.6	88.3	46.1	17.3	3,483.0	
	試験期間	総入館者	4,481	6,535	6,312	9,703	7,944	10,472	6,166	6,615	4,650	3,388	2,603	1,404	377	70,650	
		1日平均	320.1	466.8	450.9	693.1	567.4	748.0	440.4	472.5	332.1	242.0	185.9	100.3	26.9	5,046.4	
	休暇期間	総入館者	/	3,485	2,170	3,022	3,606	3,207	2,911	3,041	1,941	1,009	410	/	/	24,802	
		1日平均	/	96.8	60.3	83.9	100.2	89.1	80.9	84.5	53.9	28.0	11.4	/	/	1,771.6	
	小 計	総入館者	18,781	42,209	28,446	60,904	40,988	62,515	28,817	45,129	25,396	17,303	10,427	5,275	1,831	388,021	
		1日平均	140.2	315.0	212.3	454.5	305.9	466.5	215.1	336.8	189.5	129.1	77.8	39.4	13.7	2,895.7	
	秋 学 期	授業期間	総入館者	12,378	25,218	17,111	40,823	26,867	38,135	17,696	30,954	16,339	10,516	6,056	3,170	1,303	246,566
			1日平均	145.6	296.7	201.3	480.3	316.1	448.6	208.2	364.2	192.2	123.7	71.2	37.3	15.3	2,900.8
		試験期間	総入館者	3,621	5,537	5,556	8,696	7,144	9,373	5,825	6,594	4,724	3,365	2,595	1,511	332	64,873
			1日平均	278.5	425.9	427.4	668.9	549.5	721.0	448.1	507.2	363.4	258.8	199.6	116.2	25.5	4,990.2
休暇期間		総入館者	/	2,706	2,185	3,157	3,746	3,694	3,548	3,662	2,469	1,186	440	/	/	26,793	
		1日平均	/	60.1	48.6	70.2	83.2	82.1	78.8	81.4	54.9	26.4	9.8	/	/	595.4	
小 計		総入館者	15,999	33,461	24,852	52,676	37,757	51,202	27,069	41,210	23,532	15,067	9,091	4,681	1,635	338,232	
		1日平均	111.9	234.0	173.8	368.4	264.0	358.1	189.3	288.2	164.6	105.4	63.6	32.7	11.4	2,365.3	
日祝開館		総入館者	/	2,785	2,211	2,883	3,743	3,429	2,862	2,067	1,027	/	/	/	/	21,007	
		1日平均	/	75.3	59.8	77.9	101.2	92.7	77.4	55.9	27.8	/	/	/	/	567.8	
年度合計		総入館者	34,780	78,455	55,509	116,463	82,488	117,146	58,748	88,406	49,955	32,370	19,518	9,956	3,466	747,260	
		1日平均	110.8	249.9	176.8	370.9	262.7	373.1	187.1	281.5	159.1	103.1	62.2	31.7	11.0	2,379.8	

注1 春学期 授業期間：4月5日～7月21日 試験期間：7月15日～7月30日 休暇期間：4月1日～4月4日、8月1日～9月20日
 秋学期 授業期間：9月21日～12月24日、1月7日～1月21日 試験期間：1月16日～1月31日 休暇期間：12月25日～1月6日、2月1日～3月31日

注2 授業期間とは、学年暦による授業期間を示す。

注3 試験期間とは、図書資料の貸出期間を3日間に短縮した日から試験終了日（予備日含む）までを示す。

注4 各期間の入館者数には、日祝開館に係る数値を含まない。



e 過去5年間の地域市民の図書館利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館）

総合図書館	新規	再登録	合計	対象
2012年度	66	89	155	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2013年度	52	101	153	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2014年度	54	99	153	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2015年度	50	101	151	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2016年度	45	101	146	吹田市・池田市・八尾市の在住者

注1 2016年度の登録者(146名)の内訳は、吹田市141名、池田市5名、八尾市0名。

ミューズ大学図書館	新規	再登録	合計	対象
2012年度	68	28	96	高槻市在住者
2013年度	37	57	94	高槻市在住者
2014年度	27	64	91	高槻市在住者
2015年度	18	62	80	高槻市在住者
2016年度	31	56	87	高槻市在住者

堺キャンパス図書館	新規	再登録	合計	対象
2012年度	10	0	10	堺市在住者
2013年度	11	4	15	堺市在住者
2014年度	6	7	13	堺市在住者
2015年度	10	10	20	堺市在住者
2016年度	4	5	9	堺市在住者

注1 2012年度から堺市民利用を開始した。

(2) 図書資料の利用に関する統計

a 館別・月別図書利用者数および利用冊数

利用者区分		月												合 計	
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
総 合	館 内 閲 覧	学部学生	354	478	467	401	76	285	628	591	555	446	48	40	4,369
			500	707	696	582	102	444	917	872	851	677	74	76	6,498
		大学院学生	79	90	116	85	66	60	122	105	75	74	37	30	939
			153	123	177	133	108	104	196	154	115	124	56	44	1,487
		教 職 員	42	68	57	48	29	48	62	38	52	49	17	18	528
			70	115	109	78	53	77	96	61	69	66	23	26	843
	197	283	182	258	139	132	328	250	180	301	139	225	2,614		
	390	541	320	608	275	271	612	559	358	650	292	487	5,363		
	計	672	919	822	792	310	525	1,140	984	862	870	241	313	8,450	
		1,113	1,486	1,302	1,401	538	896	1,821	1,646	1,393	1,517	445	633	14,191	
図 書 館	館 外 貸 出	学部学生	9,090	11,518	13,990	16,362	2,246	5,816	12,702	12,320	11,366	12,046	1,455	1,022	109,933
			15,361	18,779	22,060	25,073	4,424	9,952	21,441	21,629	20,831	21,974	2,692	1,928	186,144
		大学院学生	3,122	2,711	2,813	2,622	1,132	1,766	2,971	2,686	2,526	2,592	756	818	26,515
			4,475	3,922	4,203	4,133	1,940	2,931	4,379	3,862	3,642	3,807	1,368	1,282	39,944
		教 職 員	1,554	1,442	1,347	1,278	663	1,155	1,345	1,253	1,079	1,060	599	684	13,459
			2,546	2,317	1,991	1,979	1,193	1,893	2,188	2,124	1,699	1,741	940	1,168	21,779
	1,890	2,069	1,811	1,828	915	1,264	2,207	2,074	1,625	1,834	820	909	19,246		
	2,585	2,773	2,813	3,410	1,688	2,029	2,971	2,778	2,446	2,445	1,401	1,682	29,021		
	計	15,656	17,740	19,961	22,090	4,956	10,001	19,225	18,333	16,596	17,532	3,630	3,433	169,153	
		24,967	27,791	31,067	34,595	9,245	16,805	30,979	30,393	28,618	29,967	6,401	6,060	276,888	
	合 計	16,328	18,659	20,783	22,882	5,266	10,526	20,365	19,317	17,458	18,402	3,871	3,746	177,603	
		26,080	29,277	32,369	35,996	9,783	17,701	32,800	32,039	30,011	31,484	6,846	6,693	291,079	
高 槻 キ ャ ン パ ス 図 書 館	館 内 閲 覧 ・ 館 外 貸 出	学部学生	541	484	545	495	23	143	436	330	274	283	21	17	3,592
			891	654	735	756	65	238	663	349	421	511	50	44	5,377
		大学院学生	38	46	58	68	19	38	56	56	43	32	21	6	481
			69	75	94	103	36	79	117	93	73	75	48	10	872
		教 職 員	50	28	36	44	13	13	38	41	19	21	9	10	322
			122	62	89	72	18	34	87	103	42	54	14	14	711
	24	29	52	37	20	25	34	106	42	26	12	12	419		
	34	48	73	47	29	29	92	379	69	35	18	12	865		
	計	653	587	691	644	75	219	564	533	378	362	63	45	4,814	
		1,116	839	991	978	148	380	959	924	605	675	130	80	7,825	
ミ ュ ニ ー ズ 大 学 図 書 館	館 内 閲 覧 ・ 館 外 貸 出	学部学生	301	312	455	502	46	135	312	331	297	494	83	31	3,299
			471	488	724	863	91	256	501	516	498	878	163	67	5,516
		大学院学生	53	44	56	87	16	40	68	55	52	75	22	35	603
			87	56	115	151	35	72	106	87	86	138	52	73	1,058
		教 職 員	20	41	26	25	10	32	28	36	29	29	31	28	335
			35	69	38	36	13	62	44	54	50	45	57	41	544
	122	134	139	96	42	71	103	98	109	86	93	114	1,207		
	201	186	198	152	78	120	170	153	153	129	145	175	1,860		
	計	496	531	676	710	114	278	511	520	487	684	229	208	5,444	
		794	799	1,075	1,202	217	510	821	810	787	1,190	417	356	8,978	
堺 キ ャ ン パ ス 図 書 館	館 内 閲 覧 ・ 館 外 貸 出	学部学生	217	249	293	483	34	123	397	373	428	655	58	14	3,324
			295	369	424	754	92	223	613	595	709	961	122	24	5,181
		大学院学生	17	17	16	19	6	7	21	32	26	28	7	6	202
			38	21	23	31	12	24	48	54	45	39	11	14	360
		教 職 員	31	16	40	45	10	18	30	27	20	17	15	14	283
			62	32	77	108	22	29	68	39	35	30	35	36	573
	50	58	70	53	39	46	105	80	59	46	36	40	682		
	72	75	87	81	57	71	163	133	74	75	52	58	998		
	計	315	340	419	600	89	194	553	512	533	746	116	74	4,491	
		467	497	611	974	183	347	892	821	863	1,105	220	132	7,112	

注1 館内閲覧・館外貸出ともに上段は利用者数、下段は利用冊数を示す。

注2 総合図書館の館内閲覧は、書庫図書の出納・取り寄せによる館内閲覧手続を行なったものを示す。

b 月別入庫検索者数(総合図書館)

利用区分		月												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総合図書館	入庫検索	学部学生	591	736	879	781	219	514	1,122	1,089	1,124	682	93	63	7,893
	大学院学生	771	730	844	755	350	553	837	763	677	671	258	249	7,458	
	教職員	758	647	642	642	347	539	593	518	474	466	292	322	6,240	
	その他	54	76	64	69	35	64	69	48	57	48	32	55	671	
	計	2,174	2,189	2,429	2,247	951	1,670	2,621	2,418	2,332	1,867	675	689	22,262	

注1 入庫検索とは、図書館利用規程第13条による書庫図書の利用をいう。

注2 「その他」とは、特別の事由により入庫を許可された研究員等を示す。

c-1 グループ閲覧室利用状況(総合図書館)

区分	月別												合計	月平均 (日・祝日を除く)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
利用コマ数	47	44	49	34	9	23	36	38	29	21	23	9	362	30.1
利用者数	824	767	715	365	86	290	588	496	406	282	215	87	5,121	426.7

注1 授業時間90分をコマ単位としている。

c-2 ラーニング・コモンズ利用状況(総合図書館)

ワーキング・エリア利用状況

区分	月別												合計	月平均 (日・祝日を除く)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
利用件数	390	571	692	781	191	217	660	799	540	499	33	44	5,417	
利用者数	1,750	2,452	3,248	3,181	1,038	998	3,057	3,978	2,192	1,876	161	102	24,033	
一日あたりの利用者数	70.0	106.6	124.9	122.3	64.9	49.9	117.6	159.1	109.6	98.7	11.5	6.0	93.5	

ワークショップ・エリア利用状況

区分	月別												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用件数	38	39	22	5	1	0	27	13	12	5	0	0	162
利用者数	918	600	563	233	8	0	443	482	572	290	0	0	4,109

注1 ラーニング・コモンズは2015年4月開設。

d 文献複写サービス

種別・月別	区分					小計
	総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館		
枚電子式複写	モノクロ	1,017,810	4,736	6,235	2,188	1,030,969
	カラー	22,523	1,075	193	29	23,820
	マイクロ	4,094	0	0	0	4,094
	合計	1,044,427	5,811	6,428	2,217	1,058,883

注1 「モノクロ」はモノクロ複写とモノクロプリントアウトの合計枚数

注2 「カラー」はカラー複写とカラープリントアウトの合計枚数

e 図書館間相互利用件数

種別 月別	国内								国外							
	提供				依頼				提供				依頼			
	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計
4月	30	56	221	307	5	46	102	153	0	0	3	3	0	0	6	6
5月	30	60	247	337	7	41	168	216	0	0	2	2	0	0	4	4
6月	42	59	273	374	13	53	151	217	0	0	2	2	0	0	0	0
7月	46	61	218	325	7	55	146	208	0	0	3	3	0	0	8	8
8月	27	61	213	301	4	16	117	137	0	0	1	1	7	0	1	8
9月	19	45	247	311	5	46	105	156	0	3	0	3	0	0	2	2
10月	45	73	303	421	14	26	200	240	0	1	0	1	1	0	9	10
11月	41	84	215	340	4	72	22	98	0	0	0	0	2	2	8	12
12月	28	62	265	355	9	66	158	233	0	0	0	0	0	0	5	5
1月	35	48	178	261	5	25	188	218	0	0	0	0	0	0	5	5
2月	50	46	138	234	2	21	57	80	0	0	0	0	0	0	4	4
3月	28	62	180	270	5	33	76	114	0	0	0	0	0	0	5	1
合計	421	717	2,698	3,836	80	500	1,490	2,070	0	4	11	15	10	2	57	65

注1 提供の貸出と複写、依頼の借用と複写の件数にはキャンセル件数を含む。

f 参考業務（総合図書館）

(件数)

区 分	学 内 利 用 者				学 外 利 用 者			合 計	
	教職員	大学院学生	学部学生	その他	校 友	諸機関	その他		
調 査	所 蔵	17	27	20	2	2	0	0	68
	事 項	12	8	9	0	2	0	0	31
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	29	35	29	2	4	0	0	99

注1 総合図書館における申込書の提出により処理した件数。

注2 学内利用者中の「その他」には、学内他部署からの業務上の問い合わせのほか、科目等履修生、聴講生、留学生別科を含む。

g 利用指導

種 別	区 分	総合図書館			高槻キャンパス図書館			ミューズ大学図書館			堺キャンパス図書館		
		件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数
①	入門ガイダンス「蔵書検索を学ぼう」	107	107	2,332	13	13	253	10	10	296	19	18	329
②	活用ガイダンス「文献のさがし方を学ぼう」	137	137	1,814	10	10	135	18	18	368	5	5	56
③	上位年次生のための入庫ガイダンス	386	177	2,262	0	0	0	2	0	2	0	0	0

注1 件数は実施回数、クラス数は参加したクラス数、人数は参加者延べ数である。

注2 ①②はクラス・ゼミ・研究室対象。

注3 ③は各図書館で実施した総合図書館地下書庫ガイダンスで、クラス単位と個人単位の総数。

h 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル

種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)	種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)
ACS (American Chemical Society)	51	Oxford Journals	284
APS (American Physical Society)	9	RSC (Royal Society of Chemistry)	44
beck-online	199	Sage Premier	798
Cambridge Journals Online	384	OECD iLibrary	1,222
CiNii	7,225	SpringerLINK	1,615
Elsevier ScienceDirect	2,285	Taylor & Francis	1,982
Emerald Fulltext	120	Wiley Online Library	1,674
IEL (IEEE/IET Electronic Library)	491	日経 BP 記事検索サービス	41
JSTOR	179	その他	2,603
		合 計	21,206

注1 計数処理の都合により作業時点（2017年4月）の数字となっている。

i 過去5年間の文献・情報データベース検索回数

種 別	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	備 考
1 AFP World Academic Archive *	—	—	23(4-12月)	11	86	2014年4月～
2 beck-online:プレミアム版(ドイツ法情報データベース)	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	
3 Bibliography of British and Irish History *	12	5	9	26	14	2011年5月～
4 Business Archives Online	—	100	183	248	147	2013年4月～
5 Business Source Complete(ビジネス関連データベース)	3,640(2-12月)	4,989	7,200	8,466	7,568	2012年2月～
6 CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)	257,603	264,408	785,831	666,680	598,592	2005年4月～
7 DBpia	—	—	805(4-12月)	2,077	1,333	2014年4月～
8 eBook Collection (EBSCOhost)	2,626	6,878	13,614	14,064	7,642	2011年7月～
9 EconLit with Full Text	1,471(2-12月)	3,138	5,091	6,777	1,495	2012年2月～
10 The Economist Historical Archive 1843-2012	149(7-12月)	95	60	127	88	2012年7月～
11 Eighteenth Century Collections Online	—	1,229	760	326	79	2013年4月～
12 英国王立国際問題研究所(チャタム・ハウス) オンライン・アーカイブ	—	—	134(4-12月)	48	24	2014年4月～
13 Entertainment Industry Magazine Archive	—	496	—	—	—	2013年4月～
14 eol(有価証券報告書を含む企業情報データベース)	48,207	93,609	139,749	79,064	38,149	2006年4月～
15 Factiva.com	—	1,481	1,974	2,592	3,053	2013年4月～
16 Financial Times Historical Archive 1888-2009	149(4-12月)	51	54	25(1～3月)	—	2012年4月～ 2015年3月
17 Frantext	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	2007年10月～
18 Global Trade Atlas *	—	—	102(4-12月)	60	34	2014年4月～
19 ゴールドスマ・ケルズ両文庫所蔵社会科学系学術図書館データベース(MOMW I) & MOMW II★	—	6	91	3	9	2013年4月～
20 新・判例解説 Watch *	233	208	161	209	230	2011年7月～
21 HeinOnline	計数されていない	492	758	567	740	2012年～
22 法律文献総合 Index *	478	295	231	260	344	2011年7月～
23 法律判例文献情報(法関連文献索引) *	1,283	2,549	2,953	2,699	2,721	2006年4月～
24 18th Century House of Commons, Parliamentary Papers ★	—	0(4-12月)	0	0	0	2013年4月～
25 19th & 20th Century House of Commons, Parliamentary Papers ★	73	0	12(4-12月)	6	2	2009年～
26 医中誌 Web	—	—	2,206(4-12月)	5,609	3,566	2014年4月～
27 ICPSR ★	31	129	17	337	108	2005年4月～

28	The Illustrated London News Historical Archive 1842-2003	—	41	75	89	93	2013年4月～
29	Integrum ★	—	666	96	284	194	2013年4月～
30	International Index to Music Periodicals	—	470	—	—	—	2013年4月～
31	International Medieval Bibliography Online *	22	10	4	20	14	2011年5月～
32	ジャパンナレッジ Lib (百科事典データベース)	2,197	2,587	3,507	34,114	39,082	2005年4月～
33	The Japan Times Archives	—	—	—	98(4月～)	69	2015年4月～
34	JCIF (国際金融情報センターオンラインサービス)	48	18	8	187	17	2006年4月～
35	JDream III (科学技術情報索引)	42,954	15,593	41,426	32,691	20,805	
36	Journal Citation Reports	347	3,677	102(1月-3月)	903	526	2010年4月～
37	JURIS Online ★ (独国法律情報データベース)	1,101	1,980	1,548	2,924	2,028	2004年10月～
38	化学書資料館 (国内で発行された化学書データベース)	4,595	1,780	2,139	3,626	3,228	2007年4月～
39	官報情報データベース ▲	2	34	13	19	6	2006年4月～
40	聞蔵II ビジュアル (朝日新聞記事索引) *	11,928	15,845	20,752	20,858	40,380	2006年10月～
41	KISS △	6,694	10,712	6,267	5,666	3,850	2008年8月～
42	公的判例集データベース *	515	511	408	371	387	2011年7月～
43	Kuselit Online	—	—	計数されていない	計数されていない	計数されていない	2014年4月～
44	教保文庫スカラー	—	—	395(4-12月)	800	328	2014年4月～
45	LearnTechLib	—	—	—	計数されていない	計数されていない	2015年～
46	LEX/DB インターネット (法律情報データベース) *	5,720	5,098	5,683	5,548	5,483	2003年4月～
47	Lexis.com (法情報索引)	2,190	2,532	2,704	4,047	2,198	
48	Magazine Plus (和雑誌記事索引)	15,682	14,566	15,499	14,875	21,913	
49	毎索 (毎日新聞記事索引)	3,331	3,041	26,498	9,187	6,321	2005年4月～
50	MathSciNet (数学文献データベース)	13,779	12,169	9,753	10,363	10,152	2006年11月～
51	MLA International Bibliography *	1,836(4-12月)	498	—	—	—	2011年4月～
52	Mpac (マーケティング情報サービス)	9,962	6,360	1,219	1,101	1,081	2007年10月～
53	日本文学 web 図書館 *	—	598	569	158	236	2013年4月～
54	日経NEEDS-Financial QUEST (社会・地域統計) ★	142	662	7,727	106,807	4,920	2002年7月～
55	日経テレコン (日本経済新聞ビジネス情報データベース) ☆	1,497,617	1,157,022	1,426,705	1,555,369	1,512,327	2003年10月～
56	19th Century U.S. Newspapers	—	—	143(4-12月)	340	138	2014年4月～
57	Oxford English Dictionary	—	—	535(4-12月)	650	1,089	2014年4月～
58	ProQuest Basic Search (専門分野型データベース)	5,545	8,543	5,542	3,397	2,142	2003年11月～
59	ProQuest Congressional	計数されていない	28	112	91	32	
60	PsycARTICLES (心理学文献データベース)	—	—	項目なし	2,024(4-12月)	3,872	2014年4月～
61	PsycINFO (心理学雑誌記事・文献索引)	4,073	1,695	—	2,066(4-12月)	3,835	2006年4月～
62	Regional Business News (地域ビジネス関連データベース)	1,521(2-12月)	2,504	4,033	5,186	863	2012年2月～
63	The Sankei Archives (産経新聞ニュース検索サービス) *	—	—	1,373(4-12月)	1,991	2,519	2014年4月～
64	SciFinder Academic (化学情報データベース)	47,879	47,869	55,108	63,334	61,294	
65	Super 法令 web *	314	163	127	145	95	2011年7月～
66	The Times Digital Archive 1785-1985	635(7-12月)	140	129	179	201	2012年7月～
67	Translation Studies Bibliography *	29(4-12月)	8	10	18	6	2012年4月～
68	Web of Knowledge (引用・被引用論文索引) *	14,979	11,793	—	—	—	～2013年12月
69	Web of Science (引用・被引用論文索引)	45,332	10,007	22,498	31,653	34,908	2001年8月～
70	Web OYA-bunko (大宅壮一文庫雑誌記事索引) *	401	527	332	297	225	2005年11月～
71	Westlaw Next (法情報索引)	4,766	3,910	3,793	2,350	3,055	
72	World Bank e-Library	—	—	40(4-12月)	25	13	2014年4月～
73	山一証券株式会社第一期・オンライン版 △	—	—	42(4-12月)	32	9	2014年4月～
74	ヨミダス歴史館 (読売新聞記事索引)	13,517	13,193	16,685	10,072	11,456	2005年4月～

注1 統計算出方法について

- (1) 各統計は、1月～12月までの検索回数の合計である。統計値については、データベース提供機関が独自の基準で計数した値をそのまま利用しているため、それぞれの統計値が必ずしも同じ算出方法であると限らない。
- (2) *はログイン回数、☆は結果表示件数、★はダウンロード件数、△はページビュー数、▲は利用申込者数を示す。
- (3) 表中の「-」は、当該年度が利用(統計上)開始前または利用提供終了(提供方法変更)後であること、または別の統計に含まれていることを示す。

注2 各データベースに係る注記

- 4 Business Archives Online は、2014年4月より有価証券報告書を含む。
- 6 CiNii は、CiNii Articles のみの利用統計から、2014年の統計より CiNii 全体の利用統計に計数の方法が変更になった。
- 13 以降の統計は 58 に含まれる。
- 19 ゴールドスマス・クレス両文庫所蔵社会科学系学術図書データベース (MOMW I) は、2014年4月以降、The Making of the Modern World, Part II :1851-1914 (MOMW II) を含む。2015年よりプラットフォームの変更に伴い検索回数からダウンロード件数へ計数の方法が変更になった。
- 21 HeinOnline は、World Constitutions Illustrated, U.S.Federal Agency Documents, Decisions, and Appeals, History of International Law を含む。
- 24 25 18th Century, 19 & 20th Century House of Commons Parliamentary Papers (HCPP) は、2014年4月よりプラットフォームの変更に伴い検索回数からダウンロード件数へ計数の方法が変更になった。
- 30 以降の統計は 58 に含まれる。
- 32 ジャパンナレッジは、2015年から計数方式を Counter 形式に改め、ログイン回数から検索回数に計数の方法が変更になった。
- 36 Journal Citation Reports は、2014年4月からのプラットフォーム変更 (JCR から Incites へ) に伴い4月から12月の利用統計が計数されていない。なお、2015年は Visit 数を計数している。
- 37 JURIS Online の統計値には、文書取出件数 (文書〈全文・要約・抄録等〉の閲覧件数) を計上している。
- 49 毎索は、2015年4月に毎日ニュースバックからバージョンアップした。また2014年から2015年3月までの計数方法は、検索ログ件数である。
- 51 以降の統計は 58 に含まれる。
- 52 Mpac は、2014年より計数の方法がアクセス総数から検索回数に変更になった。
- 58 ProQuest Basic Search には、ERIC、LISA、LLBA、Worldwide Political Science Abstracts、Sociological Abstracts、PILOTS、Social Services Abstracts、Entertainment Industry Magazine Archive、International Index to Music Periodicals(IIMP)、MLA International Bibliography、PsycARTICLES(2015年3月まで)、2006年4月からは PsycINFO(2015年3月まで)が含まれる。また、2012年10月からは ProQuest Dissertations & Theses Full Text(2014年4月より ProQuest Dissertations & Theses Global に変更)、2014年4月からは ProQuest Historical Annual Reports が含まれる。2014年4月より計数の方法が変更になり、統計値には ProQuest が提供する ProQuest Congressional も含まれるようになった。
- 60 61 PsycARTICLES、PsycINFO は提供プラットフォームの変更により2015年4月より計数できるようになった。
- 68 Web of Knowledge は、2014年1月より Web of Science に統合された。

j キャンパス間相互利用件数（予約取寄せ）

		提供冊数（受付館）				
		総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	合計
受入冊数 （依頼館）	総合図書館		1,492	809	1,715	4,016
	高槻キャンパス図書館	1,161		133	134	1,428
	ミューズ大学図書館	1,835	225		221	2,281
	堺キャンパス図書館	845	173	93		1,111
	合計	3,841	1,890	1,035	2,070	

k 利用者用パソコン設置台数

総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	合計
137	9	10	16	172

(3) 蔵書に関する統計

① 収書状況

a 図書資料の所蔵数（2016年度末現在）

区分	種別	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類数		視聴覚資料の所蔵数 （点数）	電子ジャーナルの種類 （点数）
		図書の冊数	開架図書の冊数 （内数）	内国書	外国書		
総合図書館		2,143,182	226,129	15,072 (2,328)	8,780 (1,301)	121,502	21,206
高槻キャンパス図書館		53,863	53,863	270 (165)	243 (65)	387	-
ミューズ大学図書館		43,579	43,579	409 (146)	72 (19)	202	-
堺キャンパス図書館		45,445	45,445	174 (149)	44 (23)	82	-
法学部資料室		31,118	31,118	1,003 (391)	50 (15)	86	-
経商資料室		32,096	32,096	915 (474)	229 (34)	0	-
社会学部資料室		41,014	41,014	843 (290)	66 (9)	84	-
視聴覚資料関係 (LL資料室、メディアライブラリー1・2)		14,698	14,698	0	0	14,698	-
法科大学院ロー・ライブラリー		12,649	12,649	131 (77)	1 (0)	0	-
会計専門職大学院図書資料室		1,297	1,297	13 (12)	0	0	-
東西学術研究所		18,506	0	632 (226)	144 (30)	117	-
経済・政治研究所		19,770	0	84 (84)	1 (1)	0	-
法学研究所		16,133	0	10 (93)	18 (4)	438	-
人権問題研究室		26,325	26,325	111 (111)	1 (1)	824	-
計		2,499,675	528,213	19,667 (4,546)	9,649 (1,502)	138,420	21,206

注1 図書の冊数には、製本した雑誌等逐次刊行物を含む。

注2 視聴覚資料は、マイクロフィルム、マイクロフィッシュが大半を占め、カセットテープ、ビデオテープおよびCD-ROM・DVD-ROM等を含み、図書の冊数の内数である。

注3 定期刊行物の種類数には電子ジャーナルの種類数は含んでいない。下段（ ）は内数で、継続して受け入れている種類数。

注4 電子ジャーナルの種類数は延べ数で、総合図書館で集中管理をしている。

(11)

図書館フォーラム第22号(2017)

b 過去5年間の図書の受入数

(単位：冊)

館	年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
総合図書館		36,175	31,706	23,407	17,329	21,730
高槻キャンパス図書館		2,346	1,942	983	1,395	1,501
ミューズ大学図書館		2,944	1,659	916	1,094	1,450
堺キャンパス図書館		7,131	6,540	1,208	1,484	1,896
計		48,596	41,847	26,514	21,302	26,577

注1 製本した雑誌等逐次刊行物を含む。

c 図書資料異動状況

(単位：点)

区分	種別	和書	洋書	マイクロ資料		その他	合計
				フィルム	フィッシュ		
取得内訳	購入	15,482	4,142	0	17	0	19,641
	受贈	1,102	110	0	0	0	1,212
	その他	3,000	2,620	72	0	32	5,724
	合計	19,584	6,872	72	17	32	26,577
除籍抹消		8,660	1,066	10	0	0	9,736
増減計		10,924	5,806	62	17	32	16,841
期末在高		1,346,735	813,669	95,510	24,149	6,006	2,286,069

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

注2 種別の「その他」はAV資料、CD-ROM、DVD-ROM等の資料を含む。

d 雑誌・新聞受入種類数

区分	種別	雑誌・新聞		
		和	洋	合計
取得内訳	購入	1,708	1,330	3,038
	受贈	1,020	51	1,071
	その他	60	27	87
	合計	2,788	1,408	4,196

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

② 分類別所蔵図書冊数（日本十進分類法による）

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	14,249	11,535	25,784
010	図書館	6,505	4,598	11,103
020	図書・書誌学	16,681	14,521	31,202
030	百科事典	3,532	3,965	7,497
040	一般論文・講演集	17,534	1,530	19,064
050	逐次刊行物・年鑑	22,607	7,836	30,443
060	学会・団体・調査機関	1,297	462	1,759
070	ジャーナリズム・新聞	16,588	7,377	23,965
080	叢書・全集	55,610	18,483	74,093
090	郷土資料	1,244	2,332	3,576
	総記・計	155,847	72,639	228,486
100	哲 学	4,079	5,279	9,358
110	哲学各論	2,423	3,796	6,219
120	東洋思想	17,885	752	18,637
130	西洋哲学	7,545	19,493	27,038
140	心理学	12,963	15,584	28,547
150	倫理学	3,722	1,394	5,116
160	宗 教	5,615	4,067	9,682
170	神 道	2,561	50	2,611
180	仏 教	15,222	1,861	17,083
190	キリスト教	6,320	8,725	15,045
	哲学・計	78,335	61,001	139,336
200	歴 史	6,327	10,741	17,068
210	日本史	50,978	1,201	52,179
220	アジア史・東洋史	31,086	5,034	36,120
230	ヨーロッパ史・西洋史	5,092	17,204	22,296
240	アフリカ史	320	1,554	1,874
250	北アメリカ史	722	2,742	3,464
260	南アメリカ史	92	91	183
270	オセアニア史	90	161	251
280	伝 記	21,316	7,048	28,364
290	地理・地誌・紀行	29,287	6,621	35,908
	歴史・計	145,310	52,397	197,707
300	社会科学	12,880	8,141	21,021
310	政 治	39,701	48,367	88,068
320	法 律	60,634	87,060	147,694
330	経 済	87,227	94,991	182,218
340	財 政	7,641	6,686	14,327
350	統 計	9,128	5,726	14,854
360	社 会	60,532	52,117	112,649
370	教 育	46,241	13,723	59,964
380	風俗習慣・民俗学	17,029	4,357	21,386
390	国防・軍事	3,708	1,399	5,107
	社会科学・計	344,721	322,567	667,288
400	自然科学	7,449	8,872	16,321
410	数 学	9,707	15,098	24,805
420	物理学	5,842	16,304	22,146
430	化 学	6,323	15,395	21,718
440	天文学・宇宙科学	2,275	1,041	3,316
450	地球科学・地学・地質学	7,043	4,481	11,524
460	生物科学・一般生物学	6,204	9,087	15,291
470	植物学	1,136	228	1,364
480	動物学	2,165	481	2,646
490	医学・薬学	23,385	10,629	34,014
	自然科学・計	71,529	81,616	153,145
500	技術・工学・工業	15,550	22,619	38,169
510	建設工学・土木工学	18,434	12,075	30,509
520	建築学	15,491	6,392	21,883
530	機械工学・原子力工学	10,217	8,980	19,197
540	電気工学・電子工学	22,879	18,394	41,273
550	海洋工学・船舶工学・兵器	1,457	375	1,832
560	金属工学・鉱山工学	5,719	6,589	12,308
570	化学工業	7,013	7,241	14,254
580	製造工業	4,498	1,532	6,030
590	家政学・生活科学	1,805	411	2,216
	技術・計	103,063	84,608	187,671

分類	内 訳	和	洋	合 計
600	産 業	5,265	391	5,656
610	農 業	12,305	4,403	16,708
620	園芸・造園	1,214	218	1,432
630	蚕糸業	227	1	228
640	畜産業・獣医学	936	149	1,085
650	林 業	1,351	235	1,586
660	水産業	1,736	275	2,011
670	商 業	16,898	14,554	31,452
680	運輸・交通	9,133	6,983	16,116
690	通信事業	3,401	2,410	5,811
	産業・計	52,466	29,619	82,085
700	芸 術	13,686	6,496	20,182
710	彫 刻	972	299	1,271
720	絵画・書道	17,526	3,891	21,417
730	版 画	830	364	1,194
740	写真・印刷	2,039	506	2,545
750	工 芸	4,212	1,362	5,574
760	音楽・舞踏	6,495	1,630	8,125
770	演劇・映画	14,054	3,257	17,311
780	スポーツ・体育	9,425	2,955	12,380
790	諸芸・娯楽	1,705	215	1,920
	芸術・計	70,944	20,975	91,919
800	言 語	4,731	14,739	19,470
810	日本語	10,886	287	11,173
820	中国語・東洋の諸言語	9,146	1,069	10,215
830	英 語	6,496	8,762	15,258
840	ドイツ語	1,082	4,411	5,493
850	フランス語	1,047	3,099	4,146
860	スペイン語	461	544	1,005
870	イタリア語	137	401	538
880	ロシア語	390	1,340	1,730
890	その他の諸言語	404	934	1,338
	言語・計	34,780	35,586	70,366
900	文 学	12,278	11,003	23,281
910	日本文学	98,378	1,608	99,986
920	中国文学・東洋文学	28,613	794	29,407
930	英米文学	8,467	24,749	33,216
940	ドイツ文学	3,327	13,467	16,794
950	フランス文学	4,567	12,619	17,186
960	スペイン文学	1,568	10,788	12,356
970	イタリア文学	472	563	1,035
980	ロシア文学	1,877	3,188	5,065
990	その他の諸文学	500	1,415	1,915
	文学・計	160,047	80,194	240,241
	合 計	1,217,042	841,202	2,058,244
	その他			227,825
	図書館蔵書数			2,286,069

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

注2 2014年度にミューズ大学図書館および堺キャンパス図書館の資料の移管を受けた。

注3 「その他」は、個人文庫などの未分類図書を表す。

③ 分類別所蔵雑誌種類数（日本十進分類法による）

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	4,752	974	5,726
100	哲 学	485	522	1,007
200	歴 史	839	337	1,176
300	社会科学	4,002	3,526	7,528
400	自然科学	741	934	1,675
500	技 術	1,713	1,608	3,321
600	産 業	678	356	1,034
700	芸 術	813	168	981
800	言 語	262	265	527
900	文 学	1,628	448	2,076
	その他	12	1	13
	合計	15,925	9,139	25,064

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

注2 2014年度にミューズ大学図書館および堺キャンパス図書館の資料の移管を受けた。

注3 重複するタイトルは、カウントしていない。

④ 図書費執行額5年間の推移

(単位：円)

		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
図 書	和	82,509,765	89,904,697	88,473,660	61,906,256	90,865,375
	洋	101,678,792	87,409,825	96,161,156	55,116,434	81,407,431
雑 誌	和	23,842,314	25,009,110	31,078,072	36,374,648	30,454,818
	洋	229,285,579	241,258,144	295,852,763	334,227,263	365,449,403
電子媒体		6,907,986	61,616,606	2,891,499	5,259,807	629,996
マイクロ資料	和	25,962,701	4,269,195	3,696,387	1,213,056	629,856
	洋	13,500,574	21,555,775	491,326	0	833,902
その他の資料		15,213,413	25,082,713	24,023,571	43,495,542	14,256,315
外部データベース		66,823,480	77,430,343	103,340,427	103,823,214	93,344,220
合 計		588,838,632	640,909,387	646,008,861	641,416,220	677,871,316
製 本 費		7,371,672	7,441,140	8,114,010	5,610,075	8,853,744

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

注2 「電子媒体」はCD-ROM、DVD-ROM等を含む。

注3 「その他の資料」には、追録、AV資料を含む。

注4 2012年度の執行額には、「日本経済再生に向けた緊急経済対策」により、2013年度執行予定であった基本図書費を前倒しで含んでいる。

注5 2013年度以降は、ミューズ大学図書館及び堺キャンパス図書館の図書費執行額を含む。

(4) その他関連統計等

① 過去5年間の図書館職員

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
専 任 職 員 〔人 数〕	22 (11)	21 (11)	21 (11)	21 (11)	21 (11)
定 時 職 員 〔総勤務時間〕	10,680	10,754	13,922	11,680	11,680
備 考	収書担当業務に2名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名、サービス担当業務に2名、計4名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名、サービス担当業務に3名、システム担当業務に1名、計6名の「派遣職員」を採用。

注1 専任職員の()は内数で、女子の人数を示す。

注2 定時職員は各人の勤務時間数が異なり、人数での比較が困難なため総予算時間数を記載した。

② 学生の閲覧座席数(2017年4月1日現在)

図書館の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合 A/B*100 (%)	その他の学習 室の座席数	備 考 【学生収容定員内訳】
総合図書館	2,260	23,547	9.60	—	(千里山キャンパス) ① 学部 21,668名 ② 大学院 1,879名
高槻キャンパス図書館	235	2,274	10.33	—	(高槻キャンパス) ① 学部 2,090名 ② 大学院 184名
ミューズ大学図書館	134	1,145	11.70	—	(高槻ミューズキャンパス) ① 学部 1,100名 ② 大学院 45名
堺キャンパス図書館	272	1,349	20.16	—	(堺キャンパス) ① 学部 1,320名 ② 大学院 29名
計	2,901	28,315	10.25	—	① 学部 26,178名 ② 大学院 2,137名

③ 10年間の展示会テーマと会期

年 度		展示のテーマと講演会の演題	会 期
2007年度	春季特別	「子どもの遊びと絵本」	2007年4月1日～5月20日
	秋季特別	「廣瀬文庫とチョーサーをめぐる本たち」 記念講演会 「廣瀬文庫とチョーサーをめぐる本たち」	2007年11月12日～12月15日 2007年11月29日
2008年度	春季特別	「百珍って何？—今に引き継ぐ江戸の食文化—」	2008年4月1日～5月18日
	特別企画展	「内藤湖南—近代日本の知の巨匠—」	2008年6月12日～7月12日
2009年度	秋季特別	「目で見る江戸俳諧の真髓—芭蕉・蕪村、そして俳諧の美—」 記念講演会 「芭蕉と蕪村の「奥の細道」」	2008年10月27日～12月13日 2008年11月17日
	春季特別	「長谷川貞信—大阪の浮世絵師—」	2009年4月1日～5月17日
2010年度	特別展	「資料に描かれた象—渡来象を中心に—」	2010年4月1日～5月16日
	特別展	「大坂文人・学者の世界—江戸時代を中心に—」	2011年4月1日～5月15日
2011年度	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「ヨーロッパのメガネ男子」	2011年5月20日(金)～6月3日(金)
	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「LOVE LETTER from Europe」	2012年5月28日(月)～6月11日(月) (6月5日(火)除く)
2013年度	特別展	「なにわユーモア画譜」展特別企画としての「プレ展覧会 春爛漫コレクション」 大正癸丑蘭亭会百周年（おおさか）記念行事	2013年4月1日(月)～4月8日(月) 2013年4月1日(月)～5月19日(日) (総合図書館第一会議室及び展示室)
	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「EU諸国の言語に翻訳された日本の小説」	2013年6月3日(月)～6月14日(金)
2014年度	図書館・博物館 連携企画展	関西大学名品万華鏡 —館館選イチオシ！— (於：関西大学博物館)	2014年4月1日(火)～5月18日(日)
	関西大学図書館 創設100周年 記念展示	関西大学図書館100年のあゆみ展	2014年4月1日(火)～5月18日(日)
	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「アナザー・ワールド」	2014年6月30日(月)～7月14日(月)
	関西大学創立 130周年記念 展示	科学と芸術—著名院士学者書法展—	2015年3月27日(金)～4月23日(木)
2015年度	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「EUのMultilingualism」	2015年5月8日(金)～5月24日(日)
2016年度	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「ヨーロッパのカフェと文学」	2016年5月12日(木)～5月26日(木)

注1 展示会のうち場所を示していない場合は、総合図書館展示室において開催した。講演会はすべて総合図書館のホールで行っている。

④ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

依頼機関	展示会・番組等の名称	会期・放映日	掲載・借用依頼資料	請求記号
吹田市立博物館	「田園都市千里山—大正時代の理想郷—」	2016年4月23日～ 6月5日	千里山住宅地平面圖	LO2*674.9**6
神戸女子大学古典芸能研究センター	「食満南北著『大阪文藝談』刊行記念講演会」	2016年5月10日～ 6月15日	芝居あくまで 歌舞伎十二月	C2*774*K1*1 LO2*K*5*14
(株)東阪企画	BS日本「ぶらぶら美術・博物館」	2016年5月20日	[象之繪卷]	C*721.8*Z1*1
東京都江戸東京博物館 あべのハルカス美術館 読売新聞東京本社 読売新聞大阪本社	「大妖怪展 土偶から妖怪ウォッチまで」	2016年7月5日～ 8月28日 2016年9月10日～ 11月6日	別世界巻	C2*721.8*M1*4
朝日放送(株)	「生誕300年 若沖 ～祈りの絵師～」	2016年9月22日	[象之繪卷] [象のかわら版]	C*721.8*Z1*1 C2*489.7**1
池田市立歴史民俗資料館	「内国博で地域振興!?—明治の夢、大大阪を拓く—」	2016年10月7日～ 11月27日	地理教育鐵道唱歌	LO2*O*100*1
大阪商業大学商業史博物館	「江戸時代のコメと納税—幕府領年貢の江戸廻米と納庄屋—」	2016年10月20日 ～11月30日	木曾路名所圖會,6巻卷之2 木曾路名所圖會,6巻卷之3 木曾路名所圖會,6巻卷之4 東海道名所図会卷之2 東海道名所図会卷之3 東海道名所図会卷之4 江戸名所図会 東海道五十三次	LH2*2.06**45-3 LH2*2.06**45-4 LH2*2.06**45-5 *291.02*A1*2-2 *291.02*A1*2-3 *291.02*A1*2-4 *291.36*S5*1-16 L23**200*7428
(株)テレビ朝日	「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」	2016年11月14日	[象之繪卷]	C*721.8*Z1*1
(株)エー・ビー・シーリブラ	BS朝日「ザ・ドキュメンタリー いのちの不思議を見つめた絵師 若沖は生きている」	2016年12月22日 2017年3月23日 (再放送)	[象之繪卷] [象のかわら版]	C*721.8*Z1*1 C2*489.7**1

2 2016年度 図書館自己点検・評価委員会名簿

	氏 名	備 考
規程第5条1号委員	内 田 慶 市	委員長・図書館長 任期：2016年4月1日～2016年9月30日
	新 井 泰 彦	委員長・図書館長 任期：2016年10月1日～2017年3月31日
規程第5条2号委員	広 瀬 義 徳	図書委員会委員（文学部選出）
	西 川 知 亨	図書委員会委員（人間健康学部選出）
	元 吉 忠 寛	図書委員会委員（社会安全学部選出）
	竹 中 俊 英	図書委員会委員（化学生命工学部選出）
規程第5条3号委員	篠 塚 義 弘	学術情報事務局長
規程第5条4号委員	山 崎 秀 樹	学術情報事務局次長（図書館担当）
規程第5条5号委員	重 石 治 久	図書館事務室
	畠 山 勝 代	図書館事務室
	井 内 晶 朗	図書館事務室

【事務局（図書館事務室）】 重石 治久

3 関西大学図書館

自己点検・評価委員会規程

制定 平成6年1月28日

(趣 旨)

第1条 この規程は、関西大学図書館規程第7条第2項の規定に基づき、関西大学図書館自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(任 務)

第2条 委員会は、図書館における教育研究の支援活動及び管理運営の自己点検・評価の取り組みを行うため、次の事項を行う。

- (1) 自己点検・評価の方針の策定並びに点検項目の設定及び変更
- (2) データの収集、分析及び検討
- (3) 報告書の作成
- (4) その他自己点検・評価及び第三者評価に関する事項

(各機関の協力)

第3条 委員会は、前条第2号に規定するデータ収集のため、それに係わる各機関に対して協力を求めることができる。

(報 告)

第4条 委員会は、自己点検・評価の結果を図書館長に報告し、図書委員会の議を経て公表することができる。

(構 成)

第5条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 図書館長
 - (2) 図書委員のうちから図書館長が指名する者若干名
 - (3) 学術情報事務局長
 - (4) 学術情報事務局次長（図書館担当）
 - (5) 図書館事務職員から若干名
- 2 図書館長が必要と認めた場合、2名以内に限り、図書委員会の議を経て大学内外の有識者に委員を委嘱することができる。

(委員長等)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は図書館長をもって充てる。副委員長は委員の中から委員長が指名する。
- 3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

(委員の任期)

第7条 第5条第2号及び第5号に規定する委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(運 営)

第8条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数の場合は議長が決する。

- 3 委員会は、必要に応じて、委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事 務)

第9条 委員会の事務は、図書館事務室が行う。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成13年10月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

- 2 この規程（改正）施行後最初に第5条第3号及び第4号の規定により選出された委員の任期は、第7条第1項本文の規定にかかわらず平成16年3月31日までとする。

附 則

この規程（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この規程（改正）は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成26年4月1日から施行する。

平成28年度 私立大学情報教育協会 大学職員情報化研究講習会 ～基礎講習コース～

上 田 夏 実

1 はじめに

平成28年7月20日(水)～22日(金)に静岡県浜名湖ロイヤルホテルにて開催された、公益社団法人私立大学情報教育協会主催「平成28年度大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～」に参加させていただいた。

本研修では、参加者が、ICT活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、大学の管理運営や教育活動の充実に向けて主体的に取り組む考察力を獲得することを目的とする。具体的には、大学を取り巻く現状や職員としての心構えについて講義を受けた後、グループに分かれて「大学が抱えている課題とその解決方法」について考察および議論を重ねた。

2 講義内容

(1) 講義①「大学情報戦略と課題」

(学校法人静岡英和学院 理事長 石井博文氏)

講師は、情報化戦略が大学の経営戦略と表裏一体であるとし、大学を取り巻く環境が激変する中、目標とする姿を具現化すべくICTをうまく取り入れる必要があると説いた。大学にとって大切なことは①ディプロマポリシー②カリキュラムポリシー③アドミッションポリシー、以上3つのポリシーを実現することであり、そのためのPDCAサイクルを構築する中で、ICTの有効活用が必須となる。情報を一元的にクラウドへ蓄積することで情報利用の時間的・空間的な制約を排除することができる。また、ビッグデータから新たな統計データ等の取得が可能になり、その結果から、より実態に則したサービス提供ができるようになる。しかし、その一方でセキュリティに求められる水準も高くなり、組織のルール決定や個人としての危機意識だけでなく、サイバー攻撃への対応も不可避である。そうしたメリットとデメリットがある中で、今一度、大学のBCP(Business Continuity Plan)を明確にし、ICTの活用について

検討しなければならない。

日々の業務では、自らも3つのポリシーの一端を担っているという意識を持たないまま過ごしてしまっていたが、学生にとっては学生生活すべてが成長の場面であり、ささいな業務においても、それを忘れてはならないと強く感じた。

(2) 講義②「全学ポータル,学修支援システム」

(明治大学情報メディア部メディア支援事務室
 寛直之氏)

標題について、明治大学では「Oh!-o Meiji システム」という名前のシステムを導入しており、2013年にそれを再構築した。講師はそのプロジェクトの中心メンバーであり、プロジェクトおよびシステムの概要を学んだ。本システムは操作性の悪さやパフォーマンスの限界等といった問題を抱えており、それを強く感じた職員から再構築の声が上がったという。教員も巻き込み、4年がかりで始まったプロジェクトでは多額の投資が必要であるため、それに見合う効果を出すべく学生・教員・職員へのアンケートを実施することで全ての利用者にとって利用しやすいシステムとはどのようなものかを探った。その結果、情報を一元化し、操作性にとことんこだわったポータルサイトが誕生した。一方で、課題としては、学生へはポータルサイトのページがまだまだ試行錯誤の段階であること、教員へは利用率の向上が挙げられていた。

一番心に残ったことは、このプロジェクト終了時点で本システムを継続向上するべく長期的な改善フローが形成されていた点である。社会人として、常に先々を見据えて計画・行動する姿勢を忘れてはいけないことを学んだ。

3 グループディスカッション

今回の参加者約100名が6つの班に分かれ、さらにその中で6人程度の3グループに分かれて討議を

行った。大学が現在抱えている課題について、ICTを活用することを条件に最適なソリューションを提案することを目的とする。

筆者のグループは「Face to Face～デジタルとアナログの両立～」というテーマの下、生身の人間同士の交流に重きを置いた提案を行った。

(0) 想定する大学

本グループの受講生は、所属する大学の規模が様々であり、話し合いの中でどのような大学を設定すれば良いかという摺合せが難航した。

最終的にははっきりと決めたわけではないが、共通認識として中規模大学を想定して話を進めた。その結果、提案の中では大規模大学では難しいような施策も挙げられていることをご理解いただきたい。

(1) 大学の役割

本グループでは、大学の役割として「社会に求められる学生の輩出」に着目した。前提として、大学は「社会を発展させる役割」を担っていると考える。その中で、研究や地域貢献もさることながら、社会を動かす「人」にスポットを当てた。大学は最終学歴となることが多く、卒業後に初めて社会と対面する卒業生が大半である。しかし、大学と社会では環境が大きく異なるため、スムーズに適応することが難しい。そのようなギャップを埋めることも大学の役割であり、社会が求める力を学生に身に付けてもらうことを目的として議論を進めた。

(2) 現状

まず、「社会に求められる学生」とは、主体性とコミュニケーション力を持った学生であるとした。社会で必要になる力は様々であるが、私たち職員が主体となって活動することを想定したため、授業ではなかなか身に付けられないものを提供したいと考えたからだ。

よく言われることであるが、社会では受け身のままではなく自ら考えて行動する力が必要だ。そのため、大学でアクティブラーニングを取り入れた授業を行ったり、ラーニングコモンズを設置したり、学生が主体的に動ける取り組みが増加し、留学やボランティア等の多様な経験ができる場も既に用意されている。しかし、それに参加しようと思う学生は、最初から主体性を備えている学生であるように感じる。

また、主体性があったとしても、一人で何かを成し遂げられるものはほとんどないことから、周りを巻き込むコミュニケーション力も不可欠となる。けれども、現状ではある程度決まったコミュニティでしか行動しない学生が多いように見受けられる。

よって、主体性とコミュニケーション力の二つを大学のスタンダードとして、全学生に取得してもらうことを目標とした。

(3) 問題点の深堀

上記の2つは、人と人が直接対話をする中で養われていくと考えられる。メールや電話といったツールはあるものの、それらは直接対面できない際のものであり、ノンバーバルも含めたやりとりのできる対話が一番信頼関係を築くことができる。そして、人との出会いから新しい世界を知り、行動意欲が生まれる。しかし、それには以下の課題が挙げられる。

【課題】

- 行事や課外活動等に消極的な学生をどのように参加させるか。
- 大学側から働きかけて課外活動等に参加してもらうだけでは、学生の主体性は養われないのはいいか。
- 学生・教員・職員の関わりが希薄であるため、そもそも教員や職員は本当に学生のニーズに沿ったイベントを行えているのか。

(4) 解決策の検討

課題解決のために、学生のFace to Faceの場を創出する。具体的には以下の3つの方法を提案する。さらに、これらの施策の実現のために、ツールとしてアンケート、ピアサポーター登録、イベントの周知等ができるシステムを活用することとした。

- ① 学生 対 学生……学生同士のOJT
- ② 学生 対 教職員……年1回の面談を義務化
- ③ 学生 対 教員 対 職員
……学生の興味に基づいたイベントを開催

(5) 「Face to Face～デジタルとアナログの両立～」

① 学生同士のOJT

2年次生が1年次生の履修登録のアドバイスや学生生活全般のサポートを行う。この活動により、新入生が大学に入学して最初のイベントである履修登録でのつまずき防止し、2年次生が主体性を持って行動するきっかけの提供を見込む。

そして、2年次生のピアサポーター選出や、OJTのフィードバックにICTを活用する。具体的には、ピアサポーター選出のため、ポータルサイト等のシステム内に蓄積した学生情報や成績情報を利用し、OJT後に2年次生がポータルサイトに記録した振り返りに対して教職員がフィードバックを行う。

② 年1回の面談を義務化

全学生を対象とし、教職員と学生の三者面談を義務化する。面談を行う職員は教学系の部署全体で選出する。学生と教職員が顔を合わせる機会を作り出し、学生の興味・関心やニーズを教職員が知ることを目的とする。

面談のための事前準備として、ポータルサイト上に進路の希望や正課外活動等、どんな学生生活を送りたいかなど様々な情報を登録する。ポータルサイトから出力した資料と、出席状況や成績等を合わせて面談をする。ICTを活用することで、情報の蓄積と、教職員間での共有を効率的に行うことができる。また、蓄積したデータをもとに、学生の傾向をプラスとマイナスの両面から知ることができる。それらの情報を活用し、留学を希望する学生に対して、留学経験のある学生のロールモデルを提示するなどして的確なアドバイスをすることができ、反対に、出席率が低く単位取得状況が悪い等の状況にある学生を早期発見し、退学者を抑制することができる考えた。

③ 学生の興味に基づいたイベントを開催

学生・教員・職員の三者が参加できるイベントを開催する。決まったコミュニティにこもりがちな学生に新たな出会いの機会を提供することと、学生、教職員間の希薄な関わりを濃密なものにすることを目的とし、職員が企画したイベントに学生を呼び込んで開催する。面談やアンケートにより、学生が興味を持っている話題をシステム上に蓄積し、イベントを企画、興味を持っている学生に向けて周知をし、参加率の向上を図る。第二段階として、学生の主体性を育成することも目的として、学生自身がイベント等を企画できるようにする。

(6) グループワークの結論

これらの施策の目的は、大学生活で様々なコミュニティの人と関わりを持ち、自分の世界を広げ、興味を持ったものについて行動してもらうことである。

学生同士または教員・職員・学生間のFace to Faceの場を提供することで、自然と主体性・コミュニケーション能力を伸ばすことができる。その結果、大学は「社会に求められる学生の輩出」という役割を果たすことができると考える。

また、我々はICTを本施策の補助ツールとして捉えたが、システムの整備・活用により情報について以下の3つが可能になる。

- ①蓄積（学生情報、過去のイベント情報、ロールモデル）
- ②共有（教職員間で蓄積した情報の共有）
- ③提供（学生の現状やニーズに合った情報を効率よく提供）

以上により、ICTを活用することでFace to Faceの場を効率的・効果的に学生へ提供し、学生の主体性・コミュニケーション能力を伸ばす機会を与えることができると考えた。

なお、私情協のホームページで他のグループの報告を閲覧することができる（注）。

4 グループディスカッションの講評

各チームがグループディスカッションの結果を発表した後で、運営委員より講評を行っていただいた。

まず、物事を考える上で、主語（主体）は誰なのかということ念頭に置く必要がある。そこをしっかりと考えないままでは、ほんやりとしたものが出来てしまう。

そして、今回のテーマであるICTの特性には次のものが挙げられる。

- ①劣化しないこと
- ②複製が簡単であること
- ③大量のデータを扱えること
- ④ポータビリティ

上記の特性を理解し、以下のとおり情報の3ステップを踏むことが、ICTの活用と言える。

- ①Date（処理）
- ②Information（構造化、Dateの組み合わせ）
- ③Intelligence
（戦略的情報、収集・分析・評価された情報）

また、言葉の意味をしっかりと知って細かな使い分けを行う必要がある、とのことだった。

5 まとめ

本研修は、「情報」という切り口であるものの「大学とは何か、職員とは何か」を改めて見つめ直す内容である。異なる地方・規模の大学の、さまざまな部署の若手が集う貴重な場でこれからの大学を一緒に考えることは、これまでに感じたことがないような高揚感を抱いた体験だった。各人が熱中するあまり、グループワークの内容がまとまりのないものになってしまったことは反省している。しかしながら、大学の職員になりたいと思っていた就職活動時期の感覚を思い出すことができた。

また、研修委員の方々が力強くおっしゃっていたのは「人的ネットワークを手に入れてほしい」ということであった。これはまさに筆者のグループが取り上げた課題であり、自分自身もコミュニケーションを大切にしていかなばならない。今回の研修で知り合った人々との縁を大事にし、所属する組織の垣根を越えて大学が抱える課題について考えていきたい。

参考文献

(注) 公益財団法人私立大学情報教育協会 (JUICE) ホームページ <http://www.juce.jp/>

(うえだ なつみ 図書館事務室)

平成28年度大学図書館職員短期研修に参加して

大上良樹

1 はじめに

大学図書館職員短期研修は、図書館勤務年数2年以上10年以下のものを対象とした、京都大学附属図書館および東京大学附属図書館主催、国立情報学研究所共催の研修であり、大学図書館等の活動を活性化するため、また、今後の図書館の企画・活動を担う要員となる上で必要な基礎知識・最新知識を修得することを目的として開催されるものである。

今回、私は10月4日(火)～7日(金)の4日間、京都会場(京都大学附属図書館)にて上田夏実氏とともに参加する機会を得た。研修の4日間のカリキュラムについては、以下の表1を参照願いたい¹⁾。

【表1】

京都大学	東京大学	時間	内容	講師等	講義資料/成果物
1日目					
		9:00-9:30		(受付)	
		9:30-9:45	15分	開講式	
		9:45-11:00	75分	大学図書館の現状と課題 [京都会場] 甲斐重武(京都大学附属図書館事務部長) [東京会場] 尾城孝一(東京大学附属図書館事務部長)	資料 Creative Commons: 表示-非営利-継承
		11:15-12:30	75分	大学図書館職員のスキルアップ法 井上昌彦(関西学院大学神戸三田キャンパス図書館メディア館 課長補佐)	資料 Creative Commons: 表示-非営利-継承
		13:45-15:00	75分	学術情報リテラシー教育の現状 須賀井 理香(東京大学情報システム部情報基盤課学術情報チーム(学術情報リテラシー担当) 係長)	資料 Creative Commons: 表示-非営利-継承
		15:10-15:55	45分	海外研修経験から見た大学図書館(1) 石山 夕紀(東京外国語大学総務企画部学術情報課 係長)	資料 Creative Commons: 表示
		15:55-16:40	45分	海外研修経験から見た大学図書館(2) 藤 順一(早稲田大学図書館利用者支援課)	資料 Creative Commons: 表示-非営利-改変禁止
		16:50-17:40	50分	[京都会場] 京都大学附属図書館見学 [東京会場] 東京大学新図書館計画の紹介	
		17:55-19:25	90分	情報交換会	

京都大学	東京大学	時間	内容	講師等	講義資料/成果物
2日目					
		9:30-12:20	170分	効果的なグループ討議法(講義) 岩田 好司(久留米大学外国語教育研究所長(教授))	資料 Creative Commons: 表示-非営利-改変禁止
		13:30-14:45	75分	大学図書館における目録業務とNACSIS-CIATの現状及び今後の構想 藤井 眞樹(一橋大学学術図書館学術情報課 目録情報係長)	資料 参考資料 Creative Commons: 表示-非営利-改変禁止
		15:00-17:30	150分	グループ討議 ※適宜休憩を含む	
3日目					
		9:30-10:45	75分	電子コンテンツのいま 森嶋 桃子(慶應義塾大学メディアセンター本部 電子情報環境担当)	資料 Creative Commons: 表示-非営利-改変禁止
		11:00-12:15	75分	Open Access: A Primer 林 豊(九州大学附属図書館eリソースサービス窓口ポシトリ係員)	資料 Creative Commons: 表示
		13:30-14:45	75分	学習/学修支援と大学図書館の役割 香海 沙織(筑波大学図書館情報メディアセンター基礎研究センター(教授))	資料 Creative Commons: 表示-非営利-改変禁止
		15:00-17:30	150分	グループ討議 ※適宜休憩を含む	

京都大学	東京大学	時間	内容	講師等	講義資料/成果物
4日目					
		9:30-10:15	45分	国立情報学研究所の学術コンテンツ事業紹介 細川聖二(国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長)	資料 Creative Commons: 表示-非営利
		10:15-11:15	60分	グループ討議: 報告会(前半: 発表と質疑応答含む)	
		11:20-12:20	60分	グループ討議: 報告会(後半: 発表と質疑応答含む)	
		12:20-12:40	20分	講評 [京都会場] 甲斐重武(京都大学附属図書館事務部長) 川聖二(国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長)	
		13:40-14:30	50分	グループ討議: 班別振り返り・修正作業	
		14:40-15:40	60分	グループ討議: 変更箇所を中心とした最終報告会(前半)	各班成果物(下野)
		15:45-16:45	60分	グループ討議: 変更箇所を中心とした最終報告会(後半)	
		16:45-17:00	15分	受講者同士の講評・意見交換	
		17:00-17:10	10分	閉講式	

【表1】のカリキュラムにあるとおり、本研修では、4日間にわたり11の講義を拝聴した。また、講義以外に43名の参加者が班別に分かれ、各班が選択したテーマについてグループ討議とその報告を行った。以下、本研修で特に印象深かった3つの講義とグループ討議・報告会について述べる。

2 「大学図書館職員のスキルアップ法」

講師は、'関西学院大学神戸三田キャンパス図書メディア館課長補佐 井上昌彦氏'で、「つながろう、気付こう、そして一歩踏み出そう!」というテーマの講義を拝聴した。

講師の井上氏は、図書館業界では著名な方で私自身も名前は聞いたことがあったが、実際に講義を聞くことは初めてであった。冒頭、「全員に10を届けるつもりはなく、分かる人に100を与えたい」という話でまずは圧倒され、そのあとも今まで聞いた講義とは一味も二味も違う内容であった。

その中でも私が印象に残った言葉がある。それは、「自分の成長は、社会の成長」である。自分自身が成長することは、自身のためだけではなく図書館の成長につながり、そのことがさらに大学の成長につながり、最終的には社会の成長にもつながるというお話を伺ったときには、これが「目から鱗が落ちる」ということかという感覚を覚えた。

また、この言葉以外にも、「講義を受ける前に講師のことを調べておく」「講義のあとは極力質問する」「勉強会参加の意義」等、ここでは書ききれないほどの、新たな気づきを与えていただいた言葉があった。この講義を初日に拝聴したことで、このあとの講義への取り組み方や意識が変わり、積極的に4日間の研修に取り組むことができた実感している。ちなみに、当日の講義資料は、国立情報学研究所サイトにて公開もされている。井上氏の講義を聞かれたことのない方は、一度ご覧いただければと思う。

最後に、ご参考として井上氏のブログ・TwitterのURLを記載しておく。ブログは100万アクセスを突破しているとのことであり、多くの方々に読まれているものである。こちらも、アクセスしてみたいかがだろうか。

- 図書館ブログ「空手家図書館員の奮戦記」
karatekalibrarian.blogspot.com/
- 「井上昌彦@空手家図書館員
(@karatelibrarian) Twitter」

<https://twitter.com/karatelibrarian?lang=ja>

3 「電子コンテンツのいま」

講師は、'慶應義塾大学メディアセンター本部電子情報環境担当 森嶋桃子氏'で、電子コンテンツの特徴から課題、今後についての講義を拝聴した。

今年度、雑誌担当として冊子体雑誌に係る業務(契約、発注、予算管理、支払処理、データ保守、利用統計等)を担っており、電子担当者とも連携し契約更新業務等を行っていたが、如何せん専門用語も多くなかなか理解し難い部分が多くあった。そうした状況下でもあったことから、基本中の基本からわかりやすく説明いただく機会を得ることができ、非常に有難かったと感じた。以下に、講義で学んだことを中心に電子コンテンツの概要をまとめておく。

(1) 特徴

提供されるのはアクセス権。また、冊子との主な違いは以下のとおり。

- ①保存スペース不要
- ②24時間どこからでも利用可
- ③利用統計取得可

(2) 契約モデル

契約条件には、「同時アクセス数」「リモートアクセス」「サイトの定義」等、様々な条件がある。また、主な契約モデルは以下のとおり。

- ①個別タイトル購読
- ②パッケージ契約 (Big Deal)
- ③アグリゲータ
- ④PPV (Pay Per View)
- ⑤買切

(3) コンテンツ提供

- ①電子ジャーナル
- ②電子ブック
- ③データベース

(4) 課題

- ①価格の上昇
→論文数増加、代替品が存在せず価格競争が成立しない、出版社の寡占化、為替変動、税金(リバースチャージ)
- ②図書費予算減による資料購入費減少
- ③パッケージ契約における制約
→購読タイトル(規模)維持、タイトル移管、契約中止後のアクセス保証問題

(5) JUSTICE の活動

JUSTICE とは、国立大学図書館協会（JANUL コンソーシアム）と公私立大学図書館コンソーシアム（PULC）が、参加館数を増やし出版社との交渉力を高めるため、2011年に統合した「大学図書館コンソーシアム連合」のことであり、主に以下の活動を行っている。

- ① 出版社との交渉
- ② バックファイル・人社系コンテンツの整備
→ NII-REO との連携
- ③ 電子リソース管理システムの共同利用
- ④ 電子リソースのアクセス保証
→ CLOCKSS
- ⑤ 職員の資質向上
- ⑥ 広報や情報収集

(6) 今後の電子コンテンツ

オープンアクセスが鍵

- ① 機関リポジトリ
- ② APC（Article Processing Charge）/
オフセットモデル
- ③ SCOAP3
- ④ Open Access 2020

また、森嶋氏の講義は、時折冗談やオフレコの話等も交えながら行われ、プレゼンテーションの進め方としても大変参考になる講義であった。

4 「効果的なグループ討議法」

講師は、'久留米大学外国語教育研究所長 岩田好司氏' で、カリキュラム中のグループ討議を行う前に、「協同の観点から、効果的なグループ討議の仕方、させ方（ファシリテーション）を学び、実践することを趣旨とし、グループワークを交えて講義は進められた。

この講義とグループワークは約3時間であったが、あっという間に時間が過ぎていった。というのも、ファシリテーターとしての岩田先生の講義の進め方はユーモアも溢れつつ、聞いている参加者を飽きさせない工夫が随所にちりばめられていたからである。この講義を聞いたことで、グループ討議への不安は、私だけでなく多くの研修参加者も和らいだものであると思う。

以下に、研修の詳細スケジュールと討議スキル・工夫（技法）について記載する。

(1) スケジュール

- ① グループ討議の環境作り（30分）
- ② 協同によるグループ討議（20分）
- ③ 協同による意思決定（25分）
- ④ グループ討議の実践（50分）

(2) 協同を促進する工夫（技法）

- ① 傾聴とミラリング
- ② ラウンド＝ロビン（順番に話そう）
- ③ シンク＝ペア＝シェア
- ④ 好きなだけ読み、いっしょ読み
- ⑤ コンセンサス法（納得法）
- ⑥ TTT（質問タイム）
- ⑦ アフィニティ＝グループピング

また、2の井上氏同様、当日の講義資料は、国立情報学研究所サイトにて公開されているので、技法の詳細等については、資料を確認願いたい。

5 グループ討議・報告会

グループ討議は、事前に設定されたテーマごとに班分けされており、そのメンバーで報告会に向けた資料作成を行い最終日に発表を行うものであった。今回の議題は、①海外調査研修計画を企画立案する。②多様な学術情報の発見と活用を支援するツールを考える。③図書館と学内他部門および教員との連携による課題解決を考える（教育・学習支援）の3つであり、私は②を選択した。

なお、効果的な討議を行うため、事前学習を行った上での、発言要旨も研修前に提出しており、後日所属する班のメンバーのものがメールで送付され、事前に確認しておくという事前課題があったことも補足しておく。

討議は、最初にファシリテーター、記録者、発表者を決めるところからスタートしたのだが、なかなかファシリテーターが決まらなかったこともあり、不慣れではあるが、これも経験と思い、私が立候補し、他のメンバーにもスライド作成や書記、発表といった何かしらの役割をそれぞれにお願いすることとした。

グループ討議は、テーマも難しく時間内にまとめられるか不安が多かったが、班のメンバーの協力のもと、岩田先生の講義を思い出しつつ取り組み、実際に班のメンバーと討議し一つの成果物まで作成でき、それなりの達成感も得ることができた。こうし

た経験は日常の業務を行っているだけでは決してできない経験であり、研修の醍醐味の一つであろう。

また、グループ討議報告では、他の班の発表を聞くことで、自分や自分の班では思いつかなかったアイデアや考えを知ることができた。さらに、今までのグループ発表と異なっていたのは、発表が2回あったことである。これは、最終日の午前中に報告したあとそれぞれの班ごとに講師の先生方の講評をいただくのだが、そのことを踏まえ、再度修正し、午後からその部分を中心にもう一度報告するというものである。通常であれば講評をいただいて終了のところ、出された疑問点や改善点を再考することで、自分たちの発表内容を深めることができた実感している。このプログラム構成は斬新なもので、今後継続されることが望ましいのではと考える。

なお、今回の研修での各班の発表内容については、京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI 紅」で公開（国立情報学研究所サイトの各班成果物 からリンクあり）されているので、興味のある方は、ご覧いただきたい。

6 研修を終えて

今回の研修に参加し、実に多くのことを学べたと実感している。以下、箇条書きにて記載する。

- (1) 図書館業務に関する知識を体系的に習得することができた。
- (2) 班ごとのグループ討議の中で、司会（ファシリテーター）を担当し、班内での意見をまとめる難しさを実感するとともに、限られた時間内で一つの成果物を作り上げたという達成感を感じることができた。
- (3) 情報交換会やku-librarians 勉強会、有志で開催された懇親会に参加したことで、国立大学、私立大学という枠組みを超えた他大学職員との人的ネットワークを形成するきっかけづくりができた。

こうした研修に参加することで得られるものは、知識はもちろんのこと、上記(3)で述べたような人的ネットワークの部分も大きいと感じた。特に、国立大学の図書館員の方は比較的若い方が多く、意欲の高い人が参加しており、少し年の離れた私にも積極的に名刺交換にこられたことは印象深い。本学図書館においても、若い世代の方には是非とも積極的に本研修に参加し、多くのものを学んでほしい。

また、多くの参加者が業務多忙の中、各図書館が抱えている課題に前向きに取り組み、勉強会をはじめ業務外での自己研鑽に精力的に励んでいることを知り、大いに刺激を受けた。

現在、図書費予算のことをはじめ、国立私立問わず、大学図書館が抱えている問題は少なくない。そうした中で、「どうすれば問題を解決できるか、何をどこまでやるのか、やれるのか、やらねばならないのか」を一人一人が考える必要があると実感している。そして、チーム一丸となり問題解決に前向きに取り組んでいく姿勢が大切ではないか。

最後に、「大切なことは、たゆまず学ぶこと」「やると決めたことを、覚悟を決めて行うこと」という九州大学附属図書館の林豊講師の言葉を胸に刻み、読書や研修への参加をはじめとした自己研鑽を怠ることなく、日々の業務にも取り組んでいきたい。

以上

注

- 1) 国立情報学研究所サイト 平成28年度カリキュラム
<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h28/index.html>

参考文献

1. 日本図書館情報学会研究委員会編『電子書籍と電子ジャーナル』勉誠出版 2014

（おおがみ よしき 図書館事務室）

2016年度図書館活動報告

1 図書委員会

第1回：2016年4月20日(水)

- 審議事項（平成27年度図書費決算について、平成28年度図書費予算について）
- 報告事項（図書費予算改革検討推進専門部会事項について、平成27年度総合図書館ラーニング・コモنزの利用状況について、平成28年度市民利用の受付結果について、学習用図書の選書協力について）
- その他（平成28年度図書委員会開催日程について）

第2回：2016年5月18日(水)

- 報告事項（図書費予算改革検討推進専門部会事項について、図書館ミニ・ガイドンスの実施について、総合図書館ラーニング・コモنز関係事項について、総合図書館ウェブサイト（旧）の閉鎖について）

第3回：2016年6月15日(水)

- 審議事項（専門部会における検討のまとめ（今後の図書費予算のあり方について）、逐次刊行物・データベースの購入希望について）
- 報告事項（図書館ミニ・ガイドンスの実施について）

第4回：2016年6月29日(水)

- 審議事項（図書費予算改革案についての各学部・研究科等の検討状況について）

第5回：2016年7月20日(水)

- 審議事項（図書費予算改革案について）
- 報告事項（高額図書資料の購入について、図書館ミニ・ガイドンスの実施について（総合図書館：7月）、ミューズ大学図書館書架増設工事に伴う休館について、学認（学術認証フェデレーション）を利用した学外からの利用について、蔵書検索システムKOALA等の停止について）
- その他（次回図書委員会の日程について）

第6回：2016年9月28日(水)

- 審議事項（平成29年度図書費の予算申請について）
- 報告事項（冊子体雑誌及び電子ジャーナル（個別契約）の契約解除について、電子ブックの試読サービスの導入について、学園祭期間中の図書館の休館について、図書館ミニ・ガイドンスの実施について、総合図書館ラーニング・コモنز関係事項について）
- その他（研究用図書の購入希望について、RSC（英国化学学会）の特典について、「関西大学創立130周年記念展示会～関西大学のちから～」の開催について、秋学期の図書委員会の開催日程（予定）について）

第7回：2016年10月19日(水)

- 審議事項（逐次刊行物・データベースの購入希望について）
- 報告事項（冊子体雑誌及び電子ジャーナル（個別契約）の契約解除について、図書館ミニ・ガイドンスの実施について、総合図書館ラーニング・コモنزの利用状況について）
- その他（学園祭期間中の図書館の取り扱いについて）

第8回：2016年11月16日(水)

- 審議事項（逐次刊行物・データベースの購入希望について）
- 報告事項（Maruzen eBook Library 電子ブック試読サービス実施結果について、図書館ミニ・ガイドンスの実施について、2017（平成28）年度関西大学図書館市民利用の募集について）

第9回：2016年12月21日(水)

- 審議事項（2017（平成29）年度図書館開館日程について、オンライン情報検索サービス半額補助の終了について）
- 報告事項（高額資料の購入について、2016年度予算の決算見込みについて、2017年度学部一般入試期間中の図書館の取り扱いについて、学認（学術認証フェデレーション）を利用した学外からの利用について）
- その他（図書館ウェブサイトの英文表記について）
- 懇談事項（新規の逐次刊行物・データベース導入に関する検討方法について、総合図書館狭隘化対策について）

第10回：2017年2月15日(水)

- 審議事項（総合図書館書庫狭隘化対策の骨子について、電子ジャーナルパッケージのバックファイルの購入について、新規の逐次刊行物、データベースの購入について）
- 報告事項（高額資料の購入について、2017年度図書館ガイドンスについて、ラーニング・コモنز利用状況について、人間文化研究機構国文学研究資料館と関西大学との「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」推進に関する協力協定書の締結について）

第11回：2017年3月16日(木)

- 審議事項（総合図書館書庫狭隘化対策の実行施策「電子資料の優先的提供」に係る作業対象タイトルについて、新規の逐次刊行物、データベースの購入について、学部一般入学試験実施期間中の総合図書館利用サービスについて）

- ・報告事項（文献相互利用（ILL）における校費料金等立替の運用変更について、大阪市立大学及び大阪府立大学とのPDFファイルの送受信による相互利用システムの運用開始について、小・中・高等学校の教科書の購入について、リポジトリ運営委員会事項について）

2 図書館自己点検・評価委員会

2017年度改善報告書および2019年度認証評価受審のための2017年度自己点検・評価報告書パイロット版の作成について確認した。

第1回：2016年10月19日(水)

- ・報告事項（関西大学図書館自己点検・評価委員会について、2018（平成30）年度認証評価受審のための2016（平成28）年度自己点検・評価報告書パイロット版の作成について）

第2回：2016年11月16日(水)

- ・審議事項（自己点検・評価報告書パイロット版（案）について）

第3回：2016年12月21日(水)

- ・審議事項（自己点検・評価報告書パイロット版（修正案）について）

3 図書館会議

図書委員会開催の前週水曜日と開催週月曜日に図書館長と図書館職員で「図書館会議」を開催し、次回図書委員会事項等を協議している。

4 関西四大学図書館長会議

- ・開催日：2016年9月30日(金)
- ・場 所：関西学院大学（西宮上ヶ原キャンパス）
大学図書館 会議室
- ・出席者：関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学

(1) 報告事項

- ①関西四大学図書館連絡会（2016年7月8日開催）について
- ②関西四大学図書館相互利用担当者会（2016年9月30日開催）について
- ③関西四大学図書館職員研修会（2016年11月30日開催）について

(2) 近況報告・情報交換

- ①図書館の図書資料費予算
- ②電子情報の利用および発信
- ③利用者サービス
- ④課題および将来計画
- ⑤その他

5 第37回（2016年度）EUiセミナーへの参加

- ・会期：2016年7月14日(木)～15日(金)
- ・会場：金沢大学附属図書館

6 セミナー・講習会等の開催

図書館利用者教育の一環として、各種ガイダンスを実施した。

○「入門ガイダンス」

新入生のクラスを対象に図書館の使い方や蔵書検索方法を説明した。

- ・実施期間：春学期 4月5日(火)～6月30日(木)
秋学期 9月21日(水)～11月30日(水)

○「活用ガイダンス（定型内容による実施）」

レポートや論文作成に役立つ文献のさがし方および入手までの流れについて説明した。

- ・実施期間：春学期 4月5日(火)～6月30日(木)
秋学期 9月21日(水)～11月30日(水)

○「活用ガイダンス（自由選択方式による実施）」

前述の「定型内容」では取り上げない特定の専門分野のデータベース（例：判例データベース、理工系学部向けのデータベース等）についての21種類のガイダンス項目を組み合わせて、内容をカスタマイズできるガイダンスを実施した。

- ・実施期間：春学期 5月16日(月)～6月30日(木)
秋学期 9月21日(水)～11月30日(水)

○図書館ミニ・ガイダンス（自由参加型ガイダンス）

毎月設けるテーマに沿って段階的に、図書館の施設案内、利用方法、各種文献の入手の仕方などを説明するガイダンスを実施した。

- ・実施期間：春学期 5月～7月
秋学期 10月～12月

7 展示会

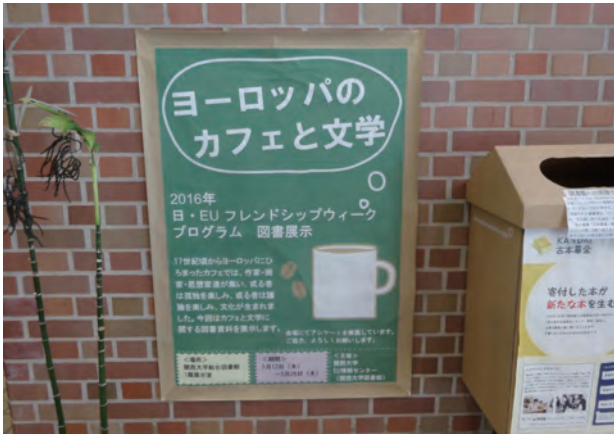
○EUi企画

「ヨーロッパのカフェと文学」

2016年5月12日(木)～26日(木)

於：総合図書館展示室

毎年、EU創設記念日である5月9日の「ヨーロッパ・デー」にあわせ、駐日欧州連合代表部の後援のもと、全国のEU情報センターで「日・EUフレンドシップウィーク」がさまざまな催しを実施している。EU情報センターを設置している本学図書館では「ヨーロッパのカフェと文学」をテーマに、カフェと文学にまつわる資料として『文学カフェ』や『ヨーロッパのカフェ文化』などの書籍を紹介した。



「ヨーロッパのカフェと文学」展示（2016.5）

8 図書館の刊行物等

- (1) 『図書館利用案内』2016年版を編集発行
- (2) 本誌第21号を発行し、図書館ウェブサイトにて公開（第15号より冊子による刊行は中止した）
- (3) 関西大学図書館パンフレット2016年版を編集発行

図書費予算改革検討推進専門部会の取り組みについて

徳岡久実

○はじめに

大学図書館にとって必須の資料のひとつである海外の逐次刊行物の毎年の誌代の値上がりは、冊子体雑誌の時代から長く続く業界の不文律であったが、電子ジャーナルの時代となった現在でもこの常識は継続したままである。雑誌担当者として出版社側の関係者と話す機会があれば、私はこの値上がりについての疑問をいつもぶつけてきたが、出版社側の主張によると投稿される論文量が年々世界的に増えていること、査読するためのコストも増大していること等、誌代を値上げしないと出版社としての存続も継続維持できないと強固に主張されるのである。しかし、このまま値上がりが続けば購読する大学側も予算が尽きて、契約する逐次刊行物の抜本的な見直しの実施、はては契約解除せざるをえなくなり、出版社をますます苦しめる結果となるのではないか。近年発表されている実践事例からも電子ジャーナルの契約解除もしくは縮小契約に変更する大学が増えていることが分かる。

本紙前号で濱生(2016)*のとおり、本学においても、現契約タイトルを維持していくだけで、いずれは逐次刊行物費は枯渇すると頭の隅では分かっていた。分かっていたが、為替の恩恵を受けた時期もあり、曲がりなりにも契約を継続できた結果、近年までその問題に目を逸らしてきた。しかし2013年頃から海外の逐次刊行物の高騰に加え、為替の円安が進んだ結果、逐次刊行物費(冊子体雑誌と電子ジャーナルの予算)と電算情報資料費(データベースの予算)を支払うために、いわゆる狭義の意味での図書資料を購入する図書費予算で補填することが難しい状況となった。すなわち冊子体図書の購入経費を逐次刊行物費に補填するため、教員の図書資料の購入希望受付を年度途中で打ち切らなければならないなど、このままでは逐次刊行物費や電算情報資料費が図書費を食い潰すという現実がようやく取り組まなければならない喫緊の課題として目の当たりと

なったのである。本稿では、こうした状況に対してどのように対処しようとしたのか、本学図書館が2016年度に取り組んだ図書費予算改革の取り組みについてまとめることとした。

○専門部会設置まで

本学の図書費の構造については濱生(2016)が詳しく述べているので詳細は割愛するが、2003年度までは学部ごとに配分された図書費予算でそれぞれ図書資料や逐次刊行物を購入してきた。2004年度から学部ごとの予算管理を改め、いわゆる図書資料については分野ごとに管理する「学系別予算(人文・社会・自然工学・総記)」へ変更し、「逐次刊行物費」も学部別から一本化して冊子体雑誌と電子ジャーナルの経費を執行することとし、同時にデータベース等は新たに一本化した「電算情報資料費」として管理することとなった。

具体的な運用方法としては、まず図書館に配賦された図書費予算総額から、予め見積金額が予測できる「逐次刊行物費」とデータベースの「電算情報資料費」の予算を確保して先に取り置き、残額を図書資料購入費用にあてていた。しかし、最初に確保する「逐次刊行物費」と「電算情報資料費」が増大するにつれて、狭義の図書資料購入予算金額が年を追うごとに減少していくこととなった。この状況をグラフ化したものが「図1 2004～2016年度の決算比」であり、図書資料購入予算金額の予算全体に占める比率が減少していることが顕著に表れている。

また、本学図書館の運営について審議する機関である図書委員会においては、2014年頃から電子ジャーナルの契約の特殊性や利用統計資料などの情報を開示して、図書費の現況について説明してきた。そのうえで、2015年6月開催の第3回図書委員会において図書館長提案として「図書費予算配分の抜本の見直し」を提案した。提案の趣旨としては図書費総額の多くを占めていた電子ジャーナルとデータベー

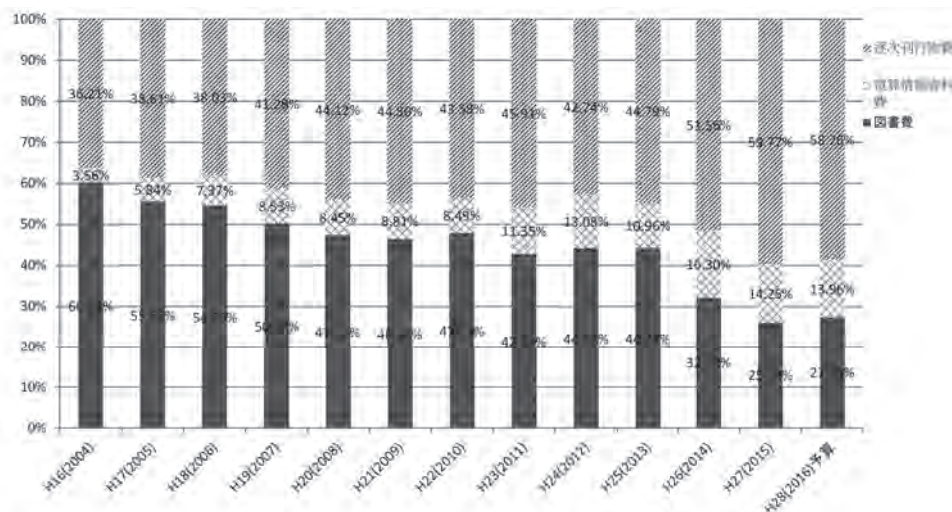


図1 2004～2016年度の決算比（2016年は予算比）

スについては利用統計と契約金額から1アクセスあたりの利用コストを計算し、今後の契約金額が図書費予算金額を超える場合は利用コストの高い商品から契約を解除していくというものであった。しかし、残念ながらこの提案は2015年7月開催の第4回図書委員会において強硬に否決され、契約中の電子ジャーナルとデータベースについては全契約を引き続き維持することが確認された。

図書委員の先生方からは、「電子ジャーナルやデータベースは研究の生命線であり、いくら契約金額が高くても不要だと判断できない」、「図書館だけで検討するのではなく、大学執行部として検討をするべきだ」などの意見も多く出されたため、2015年9月の学長面談で事情を説明したところ、当時の学長から「図書費の執行に関しては図書委員会にて責任を持って決定すべきである」との指示があり、改めて図書委員会の下に専門部会を設置し、検討することとなった。

これを受け、2015年11月の図書委員会で、図書委員会傘下に「図書費予算改革検討推進専門部会」を設置することが了承された。メンバー構成については図書館長を座長として、学長補佐、研究推進副学長、図書委員から4名、図書館情報学の教員等から成り、事務職員は学術情報事務局長、研究推進部次長、図書館次長に事務局3人の合計15人でスタートした。専門部会が本格稼働する前には専門部会の委員に向けて事前説明会を実施し、これまでの図書委員会での検討の経緯や電子ジャーナル契約の特殊性、他大学の取り組み事例などを説明した。専門部会の検討期間は2015年12月から2016年6月で、定

例会は原則毎月1回開催することとなった。また、専門部会での検討内容については随時図書委員会にも報告し、情報共有を図った。

○専門部会の目的

専門部会では以下の3つの目的を柱に検討を進めた。

- 1 逐次刊行物費（電子ジャーナル及び冊子体雑誌）と電算情報資料費（外部データベース）の予算合計額と図書そのものを購入する予算との適正な比率を設定する。
- 2 逐次刊行物費と電算情報資料費の契約額が設定した比率（金額）内に収まるよう、契約見直しルールを策定する。
- 3 図書そのものを購入する予算（内訳・学系別図書費、大学院生用図書費、学習用図書費、基本図書費、特別資料充実費など）の実態に即した配分ルールを策定する。

○専門部会の検討のなかで難しかったところ

検討を進めるなかで専門部会委員の先生方の声として、図書を購入する費用がこんなに逼迫しているとは知らなかったという意見が多く寄せられた。冒頭で述べた海外の逐次刊行物の誌代の値上がりについても、なかなか理解してもらえず、図書館が出版社や代理店の言いなりになっているのではというご意見もいただき、理解しづらい契約の特殊な仕組みを説明することの難しさを痛感した。また、図書費

は研究を進めるための生命線なので、図書館は図書費予算獲得のため法人に強く要求するべきという意見が出る一方で、今後学生数が減少するのは事実であり、予算の増額にはおのずと限界があることを前提とするのであれば改革は必要であるという反対意見もあった。

また、もっとも難航した目的2の契約見直しルール策定について議論を深めるため、議論の材料となるデータを収集する必要があった。そのため教員の現在の利用実態を把握するべく、教員向けアンケートを実施した。アンケートでは研究遂行上必須の「冊子体雑誌タイトル」、「電子ジャーナルの個別タイトル」は何か（それぞれ20タイトルまで）、現在契約中の「電子ジャーナルパッケージ」と「データベース」について研究遂行上優先度の高いものに、教員一人当たり50ポイントを上限としたポイントの配分を尋ねることとした。図書館としては精いっぱい広報に努めたが、アンケートの回収率は約32%にとどまった。集計の結果、傾向として理工系電子ジャーナルやデータベースのポイント数が圧倒的に高かったため、「文系と理系では参考資料の利用方法が根本的に違うのではないか」というご指摘や「逐次刊行物やデータベースだけが守られるのはおかしい」、「昔は電子資料が一切存在せず、図書費予算は全て狭義の図書資料を購入できていたので、電子資料にお金が必要ならば、受益者負担も考えてはどうか」という意見もいただいた。受益者負担については、利用者が利用に応じた経費を負担するという一見理にかなったやり方のように見えるが、出版社側から誰がどれだけ利用しているかの情報を開示していないため、負担額の公平な算出が難しいという課題があり、一方で、学内のネットワークのログの分析により利用実態を把握するには、莫大な開発費用が掛かることが容易に想像できた。

○「図書費予算改革案」策定に向けて

専門部会では前述の図書館アンケート結果から、0ポイントすなわち必須資料としての投票がなかった冊子体雑誌と個別契約の電子ジャーナルについて、契約の解除を図書委員会に諮り解除についての再確認を経て経費のスリム化を図った。加えて、電子ジャーナルパッケージとデータベースについては、昨年度のダウンロード数と今年の契約金額から「1回あたりのダウンロードコスト」を算出し、「アンケー

トの総ポイント数」÷「1回あたりのダウンロードコスト」を評価点として、今後の契約維持の優先順位を割り出した。これらの結果を基に、予算が不足した場合には、評価点の低いタイトルから解除することを前提としたシミュレーションを行い、以下の通り図書委員会に改革案として提案した。

○改革案に示した4つの基本方針

- 1 この改革案については2017年度から2019年度までの3年間に適用する。
- 2 当初は図書そのものを購入する予算と逐次刊行物費及び電算情報資料費の合計額との適正比率を設定する方針であったが、最低限確保すべき図書費の購入予算金額を設定し、3年間固定することとする。
- 3 図書購入予算については新たな予算区分及び実態に即した学系別配分比率（人文・社会・自然工学・総記）を設定する。
- 4 図書館へ配賦される図書費総額から最低限確保すべき図書購入予算額を差し引いた額を逐次刊行物費と電算情報資料費にあてることとし、その予算額を超えた場合は、予算額の範囲内に収めるための契約見直しルールを設定する。また、契約中の電子ジャーナルパッケージとデータベースについてはアンケートの結果をもとに優先順位表を作成した。

上記の改革案については、2016年度第5回図書委員会へ諮り、反対も含めた様々な意見が出されたものの賛成多数により承認を得た。ただし、図書館として今後も辛抱強く出版社への値引き交渉や法人への予算獲得への働きかけを継続することも確認した。

○今後の課題

2016年秋の円高のおかげで最低限確保すべき図書購入予算額を確保しても、契約中の電子ジャーナルパッケージとデータベースについては1件も解約することなく2017年契約を維持することが可能となった。しかしながら、逆に今後円安になる可能性も十分考えられるため、関係部局とは今後3年間の予算申請にあっては、為替レートを固定し、誌代の値上がりと為替変動の影響を分離することとし、協力して為替変動のリスクを最小限に抑えていくことを確

認した。

このように2017年度の契約についてはすでに契約中のタイトルを維持できる見込みとなった一方で、新規タイトルの導入やタイトル同士の入れ替えについてのルールを策定するには至らなかった。そのため、新規の逐次刊行物・データベースの希望については、ここ2年間全く新たに導入できていない状況にある。限られた予算のなかで現在の契約を維持しつつ新たな分野の資料の導入に関するルールを策定することは難しいが、2018年2月頃には一定の結論を出せるように議論を開始したところである。

新規資料の導入に関して明確なルールの策定ができるのかどうか、課題は山積しているが、本学図書館における電子資料を巡る改革は3年間という時限的な改革の端緒にあわせて、新たな段階を迎えつつあると考えている。

引用文献（*）

- 濱生快彦「電子ジャーナルがキャンセルできない理由～関西大学図書館の場合～」関西大学図書館フォーラム 21, 2016

参考文献

- 上田修一「学術情報の電子化は何をもたらしか」情報の科学と技術 65 (6), 2015

（とくおか くみ
高槻ミューズキャンパス事務グループ）

執筆者の所属は、当フォーラムへご寄稿いただいた時点のものです。

図書館出版物案内

1 冊子目録等

- 細江文庫目録……450円 ※
わが国英語学界の重鎮、故細江逸記の旧蔵書目録。
- 大阪関係資料目録……650円 ※
1960年1月1日現在所蔵の大阪府、市関係の図書・地図・近世文書・堂島文書・芝居番付・明治中期広告の総合目録。
- 生田文庫・額原文庫目録……非売品 ※
在野の万葉集研究家故生田耕一の旧蔵書の一部と、故額原退蔵旧蔵書の目録。
- 吉田文庫目録……1,300円 ※
元トルコ駐在特命全権大使であった故吉田伊三郎の旧蔵書目録。
- 岩崎美隆文庫・五弓雪窓文庫目録……1,500円 ※
江戸時代末期の国学者岩崎美隆の旧蔵書目録と、幕末の漢学者五弓雪窓の旧蔵書目録。
- 増田渉文庫目録……6,000円 ※
わが国魯迅研究の第一人者であった元文学部教授故増田渉の旧蔵書目録。魯迅の全著作の初版本他。
- 矢口文庫目録……2,700円 ※
本学の元学長で、イギリス経済史学界の重鎮であった故矢口孝次郎の旧蔵書目録。
- 極東国際軍事裁判資料目録……非売品 ※
極東国際軍事裁判における検察側及び弁護側提出の書証と関係資料の目録。
- 近世文書目録 ※
その一……1,350円、その二……2,000円
大阪周辺の庄屋文書を核に、ほぼ全国各地の近世文書を加えたコレクション。
- 大阪文芸資料目録……3,500円 ※

明治以降の、大阪にゆかりのある作家・画家・芸人などの作品や大阪を題材とした作品などの本学所蔵コレクションの目録。

- 内藤文庫漢籍古刊・古鈔目録……2,500円 ※
内藤湖南・伯健父子旧蔵書の一部善本類の目録。
- 内藤文庫リスト No.1～No.5…非売品 (ただし、No.1は品切) ※
- 芝居番付目録……8,000円 ※
大阪を中心とする宝暦から昭和に至る歌舞伎、浄瑠璃等の芝居番付約6,500点の目録。
- 摂津国嶋上郡高浜村西田家文書目録……非売品
- 河内国丹北郡六反村谷川家文書目録……非売品
- 摂津国住吉郡中喜連村佐々木家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡豊田村小谷家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡岩室村中林家文書目録……非売品

2 CD-ROM版

- 内藤文庫目録 KUL-bijou……非売品

3 図書館出版図書

- おおさか文藝書画展 図録……2,000円
1994年9月、図書館創設80周年記念・文学部創設70周年記念として開催した「おおさか文藝書画展—近世から近代へ—」の図録

以上

注 ※印のものは関西大学図書館ウェブサイトの特典コレクションにて目録を公開しています。
(<http://opac.lib.kansai-u.ac.jp/>)

『図書館フォーラム』投稿要項

制定 平成 8 年 3 月 31 日

『大学図書館研究』の原稿募集要項に準じて、概要を次のように定める。

(1) 原稿執筆者の範囲

原則として、依頼記事・寄稿記事いずれの場合も、本学の教育職員並びに本学図書館所属の職員を執筆者とする。

(2) 原稿の内容

次のいずれかで、執筆者自身の未発表原稿とする。

- ア 研究論文・研究ノート
- イ 図書館に関する調査・意見
- ウ 本学所蔵資料の紹介
- エ 図書館職員のレポート
- オ その他図書館に関する記事

(3) 取 載

寄稿原稿が予定の紙幅を超える件数があったときは、取載順序を図書館長が決める。

(4) 謝 礼

依頼記事の執筆者（図書館職員は除く）には、若干の謝礼を贈呈する。ただし、抜刷は提供しない。

(5) 投稿先

関西大学図書館事務室 (TEL 06-6368-1157)
電子メール (lib-ent@ml.kandai.jp)

(6) 執筆要領

- ア 本誌 1 ページにつき 2,070 字相当とする。
- イ 原稿は横書き、電子メールまたはフロッピーでの提出を原則とし、手書き原稿も可とする。
- ウ 電子メールまたはフロッピーで提出する場合は、プレインテキスト (txt) 形式もしくはワープロ (Word) 形式を原則とする。
- エ ワープロを使用の場合は、1 行を 23 字とし 45 行を 1 ページとして設定する。
- オ 本文中に図・表または写真を掲載する場合は、その相当分の字数を割愛する。
- カ 原稿は次の順に記載する。
 - ① 標題、② 執筆者名、③ 本文、④ 注記、⑤ 引用文献、⑥ 参考文献、および⑦ 執筆者名の読みがな・職名
- キ 原稿の表記は、次に従うものとする。
 - ① 漢字は原則として常用漢字を用い、新かなづかいによる。書誌学的な理由などから、特に旧字体を使用する必要がある場合は、原稿用紙の右欄外にその旨を記す。また、欧文原稿を除き句読点は「。」「、」を用いる。
 - ② 数字は、引用文および漢語の一部として漢数字が習慣

的となっている場合を除き、原則としてアラビア数字を用いる。

③ 引用文献、参考文献の記載方法は、次のとおりとする。

a. 雑誌論文の場合

筆者名 “論文標題” 『雑誌名』 巻 (号)、年月、ページ

b. 図書の中の一部引用の場合

著者名 “論文標題” 『書名』 (図書の著編者名) 出版地、出版者、出版年、ページ

c. 図書の場合

著者名 『書名』 出版地、出版者、出版年

d. 欧文の場合は、著者名を転置形として、雑誌名または書名には『 』を付さずにアンダーラインで示す (印刷では、イタリック体活字になる)。

[例] Downs, Robert B. “How to start a library school.” *ALA Bulletin* 52 (6), 1995.6, pp.32-48.

e. インターネット上の文献

著者名 “文献標題” [参照年月日] (URL)

[例] 永沼博道 “21 世紀の大学図書館に向けて—伝統と現代化の相克” [参照 2003.1.20]
(URL http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/about/lib_pub/forum/2002_vol7/2002_01.pdf)

ク 図・表は、図 1、図 2、表 1、表 2、fig. 1 のように記す。図または表を電算等で出力したものをそのまま使用するとき、鮮明なものを用いる。写真は出来るかぎりモノクロームを用いる。図、表、写真には、その裏に執筆者名、標題、図 1、図 2、表 1、表 2 のように番号を鉛筆書きのこと。

ケ 校正は、初校を執筆者に依頼し、再校以降は図書館が行うことを原則にするが、必要のある場合は、再校以降についても執筆者の協力を得るものとする。

(7) 掲載した著作物の電子化と公開許諾について

本誌に掲載した著作物の著作権は執筆者に帰属するが、次の事項について執筆者はあらかじめ了解するものとする。

ア 関西大学図書館ウェブサイトにて公開されること

イ 国立国会図書館が行う電子メディアに収録されること

以 上

〈平成 21 年 12 月 1 日改正〉

編集後記

作業に取りかかった当初は、初めて取り組む編集作業に四苦八苦しておりましたが、お蔭様で図書館フォーラム第22号を無事に刊行することができました。

ご寄稿いただいた皆さまには、ご多忙の折にも関わらず、快くご執筆いただきましたことに心より感謝申し上げます。また、刊行にあたりご協力いただいた方々にも改めて御礼申し上げます。

最近の当館の状況としましては、当巻号でご報告いたしましたとおり、海外の逐次刊行物や電子ジャーナルの高騰、為替変動の影響等により、新刊書の購入が困難になる等苦しい一面があります。一方で、2年前に総合図書館内にオープンしたラーニング・コモンズでは、学生たちが様々な情報資源を活用しながら一層活発に議論を行っており、満席になることも珍しくありません。

前号の編集担当者もこの欄で取り上げていたように、大学図書館は今、「アクティブ・ラーニングを取り入れた学修支援ができる場であること」と「静謐な環境で自身の学習・研究活動に没頭することのできる従来の図書館機能が維持された場であること」の一見矛盾する2つの「場」を提供することが求められています。こうした「場としての図書館の二面性」における新たな課題に対して、図書館単独で取り組むことは難しくなっています。こうした状況の中、当館では学内の関係部署や教員、他大学図書館等とも連携を図りながら、少しずつ課題に取り組んでいます。

1年後には、新たな取り組みの成果をご報告できればと考えておりますので、今後とも当館をよろしく願います。

(田中)

図書館フォーラム編集担当

重石 治久・古林 雅代・田中 久美子

関西大学 図書館フォーラム 第22号 (2017)

2017年6月30日発行

編集・発行 関西大学図書館
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-1157
<http://opac.lib.kansai-u.ac.jp/>

制作 (株)遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL 06-6304-9325

関西大学所蔵

「村田春門家集」(原題『藤門雑記 近代和歌』)

関西大学図書館 手紙を読む会

今回ここに紹介するのは、昭和三十二年に関西大学図書館所蔵となった「岩崎美隆文庫」中の「村田春門家集」(原題『藤門雑記 近代和歌』)の翻刻文である。岩崎美隆は、文化元年(一八〇四)に生まれ、四十四歳の若さで弘化四年(一八四七)に亡くなった河内国花園村(東大阪市)の国学者、歌人である。村田春門(一七六五―一八三六)の門人で、生涯河内から出ることなく終わった人であったが、枕草子研究や和歌に特筆すべき成果をあげ、当時一流の国学者であった和歌山の加納諸平(一八〇六―一七七)とも交流があり、近隣の中西多豆伎、荒木義蔭は、美隆の門人である。本書は、師である村田春門の家集作成のために、春門の和歌を抜き書きしたものであり、巻末に「天保四巳年(一八三三) 正月九日写畢 美隆」の記載がある。全七十五丁にわたり細やかで流麗な文字で筆写されており、初句右側部分に――の印や、色紙で付箋がつけられた和歌が散見し、家集作成時に選歌すべきか、校閲した跡が残る。和歌総数千七百七十九首(内十二首は市岡猛彦の和歌)であるが、今回の翻刻は前半部分の四百三十七首である。

そのうち詠作年代が判明しているものは、後半部分になるが、詞書に「以下卅首 文政三年(一八二〇) 正月廿二日夜詠」とある三十首である。それ以外の詞書中の語句や人名で、詠作年代が推定される事項を挙げてみた。

「本居大刀自の八十賀寄鏡祝」は、本居宣長の妻、勝子(一七四一―一八二二)の八十賀で、文政三年頃である。

「市岡猛彦」(一七八一―一八二七)は、尾張藩士で春門と鈴屋同門。文政十年没。

「中西重孝」(一七七八―一八二四)は、河内国喜里川村(東大阪市)の庄屋で春門門人。文政七年没。

「去年河内集といふものえらひつるに(以下略)」の「河内集」は、岩崎美隆や中西重孝等が編集し、文政二―三年に刊行された春門社中の歌集である。

「清水浜臣」(一七七六―一八二四)は、江戸の国学者。文政七年没。

「紫蓮尼」(一七五七―一八二七)は、河内国日下村(東大阪市)の上田秋成と交流のあった歌人。紫蓮は号で、通称は、唯心尼。文政十年没。

春門が大坂に住んだのは、文化十年から文政十一年にかけてであるが、美隆が春門の門人となったのは、十六歳頃の文政三年とされる。従って本書の原歌となったのは、春門在坂中、美隆入門後の文政三年から文政十年前後の詠歌と推定される。本書を、美隆が「近代和歌」と名付けた所以である。「岩崎美隆文庫」には、他にも筆写年不明の「村田春門自撰集」「村田春門家集」(いずれも、原題『藤門雑記 近代和歌』)などがあり、対比すると、さらに判明することがあると思われる。後考を待ちたい。

一 書誌

書型 二三三・〇×十六・三糶

丁数 七十五丁(墨付七十五丁)

表紙及び用紙 紺色布目地

内題 藤門雑記 近代和歌

印記「岩崎美隆文庫」

請求記号 LI2/911.204/12/1-49

資料ID 001507648

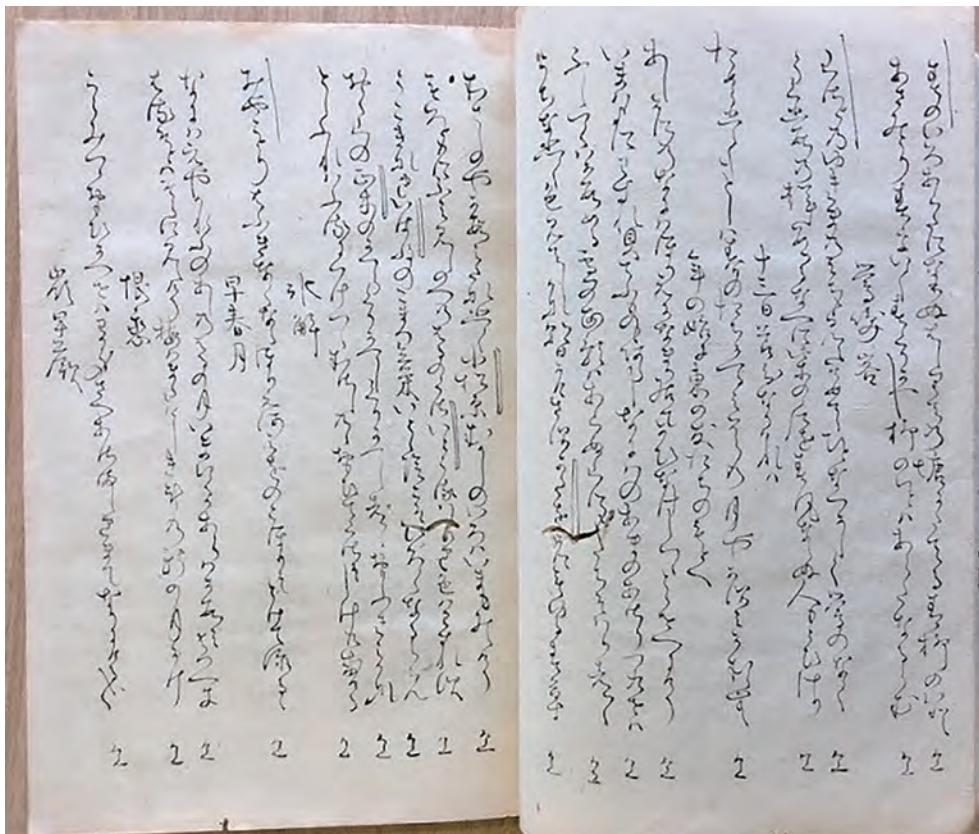
関西大学図書館手紙を読む会のメンバーは、以下の通りである。

森川 彰（助言者）、池尻孝子、鶴飼香織、田中純子、中川敏子、長谷
章子、瓢野由美子、福嶋真奈、八尾奈緒美

二 凡例

翻刻については、次の要領に従った。

- 漢字は、原則として常用漢字に改めた。
- 仮名は、原則として片仮名及び平仮名を用い、変体仮名は平仮名に改めた。
- 踊り字はそのままにした。
- 破損、虫害、判読不能は□で示した。
- 明らかな脱字については「」を付けて補った。
- 丁移りは「」で示し、下に丁数と表（オ）、裏（ウ）と明記した。



写真①

藤門雜記

近代和歌

万歳楽

はつはるの よことほきこと とりくくに うたふそらすむ 万世の声

春門

都霞

かも川や かすみなかれて うち日さす みやこおほちそ はるめきにける

同

はる風の ぬるまぬほとは 九重も またひとへなる はるかすミかな

同

江春月

水のうへに あそふほり江の みやことり 声かすむよの 月そのとけき

同

蝶

あさ風二 かきねの小草 打なひき さむるかてふの 春のよゆめ

同

早春興

梅のもと やなきのかけと うかれよる われをやいとふ 春のうくひす

同

「1才」

郭公

夢なれや 花ハあとなき 暁の まとの若葉の 山ほと、きす

同

ほと、きす わかやと、ひぬ うの花の 月よたしとハ つけぬものから

同

馬上郭公

ありあけの 月けのこまの をのへより くもにはなれて 鳴ほと、きす

同

与女待郭公

ほと、きす なれもこよひハ こもりつま こしらへかねて よを明すらん

ほと、きす

同

神祭

かみまつる 杜のしめなハ 夏かけて をりにあひけり ふちなミの花

同

山さとに かみまつるらし うの花の いろにたくへる そでのゆく見ゆ

同

あめはる、 杜の榊の 露ちりて ゆふへす、しき かみまつりかな

同

春雨静

うちかすミ あめそほふれり みよしの、 たのをいまか かりのたつ

同

らん

「1ウ」

雨中苗代

しめはへし なハしろをたの さし柳 それもミとりに 春さめそふる

同

貴賤更衣

みそのふハ いはしやしつか 袖かきも うの花かさね なつきたりけり

同

若竹

ことしおひの たけの末葉も ひろこりぬ のきのす、めの ふしなる、

同

まて

薬玉

たまにぬく たちはなあやめ とりくくに ひとにくからず かをるそて

同

荆棘

ささみちし つ、ミのうハラ 花うハラ あさゆふつゆの すかるなくなり

夏動物

あかつきの うハけのほしの かけ見ゆる かのこかりする のへの萩原

同

家々納涼

門に出て ことゝひかハし すゝむらし このひとさとの たくれの声

同

江浮草

にほとりの ならひてうかふ くさかえや くさのかたかき 夏の夕かせ

同

夏夜待風

かゝりひも やりミつとほく たきすさひ 風まちわたる なつのよはかな

同

河辺早秋

かりころも たもとすゝしも こまとむる ひのくま河の あきのはつかせ

同

あまの河 つゆのすかハラ うちなひき なきさのさとに 秋かせそふく

同

月前草花

夕つゆの ものしめやかに なりにけり 月のいろとる あきの花その

同

深夜擣衣

からころも うちおとろかす いめひとの ふし見のさとの 月そかたふく

同

月前竹

つゆちりて 月をさわかす くれたけの なかきにごひの 秋のよあらし

同

あきのよの

名所鹿

かせさわく 秋をうしとや 尾花ちる しつくの田居に 鹿の鳴らん

同

禁中菊

さかりなる きくのかさしに ひさかたの ほしのかすそふ くもの上かな

同

九月十三夜によめる

かりのこす おくてのつゆの 玉かづら なかきよころも あかぬ月哉

同

かそへこし いけのもなかの 月よりも てりまさりけり きくの上のつゆ

同

また折句十三夜

下もみち うつろふ月の さよ中に むらくもはるゝ 山かけのさと

同

河にもみちの流るゝを

もみちふく あらしのゝちの のとせ河 のとかにミづの 秋そなかるゝ

同

擣衣幽

古衣 うちしくれゆく 山さとハ こゑかすかにも 更る月かけ

同

田家初冬

刈はてし いなむら雀 たちさわく かとたのさとそ しくれそめける

同

冬磯

みさこゐる ありその松の かせさえて こほるかおりの あまのぬれ衣

同

冬原

しもなから やまとなてしこ にほふ也 かせ吹さやく もろこしかハラ

同

あられ

玉あられ をさゝのかけに 吹ためて しはしは風の いろも見えけり

同

埋火

よにしらぬ 春そおほる 炭さして ぬるやこのめの かをる山さと

同

冬雨

春めきし 冬のゝひハリ こゑかれて くさのいほりに そゝくあめかな

同

千鳥

おきつなミ ひゝきのなたに 月おちて かこのみなどに ちとりなく也

同

枯野

かれを花 日かけみしかき ふゆののゝ のひのけふりの 末そしくるゝ

同

初雪

くれなるの おち葉ころもを たちかさね 薄衣ハかり ふれるゆき哉

同

依花待春

さきてとく ちるつれなさを こりすまた 花としいへハ 春そまたるゝ

同

神楽

みひしろく たきすすひたる 暁の とほしひあねの そてさゆるなり

同

近恋

たちさわく よのあたまに しほふねの ならふとなりも 中ハ絶けり

同

寄柴恋

日にそへて やせとやせゆく 我身こそ もゆるおもひの ましハなりけれ

同

寄糸恋

かたいとの おもひよりても とけかぬる そのひとふしニ まよふころ

同

かな

いはくらの 山のいはかね よろつよを つみてうこかぬ みやこ成けり

同

寄都祝

ひなすゝめ はねならハしに とふものゝ こけのつゆをも みたさゝり

同

けり

故郷蟬

うつせみの 世ハつねなしや ふるさとの 松のミたかき ゆふくれの声

同

山中社中女方男方とわけてうた合しけるに女かたかちけれハ

月こそハ うハのそらなれ あめもよの あハれもふかく なくほとゝきす

こハ女かたハ雨中のほとゝきす男方八月前のほとゝきすなりけれハ也

同

鵜河

よもすから かゝりさしそへ 河浪の あらうの手なは くりかへすらむ

同

滝辺納涼

たきのいとは むすふにかたき ものながら なつハひとをも ひきとゝ

同

めけり

山家雨

すみなれし 山さとひとは かくはかり おもひいるとも 見えぬあめかな

同

漁舟火

海原ハ つきなきよはも はるくと ふねのかすさへ 見ゆるいさり火

同

秋草

うつくしミ よりてもひかん あきくさの 花のたもとに かゝるしらつゆ

同

寄髪恋

わたつミの 雁をふかめて みるふさの いはひてあくる いもかくろかミ

同

老人恋

おいなから 心ハなほも すきものと ひとのすさめぬ このミなりけり

同

夏興

かふちねに 月さしいつる 夕しほの ひかりす、しき 浦風ぞ吹

同

白地恋

たつぬへき しをりもとめす 天のとの あからさまなる 我ちきりかな

同

人に梅のミをこふとて

あめはる、この下やミに 色つきし うめのミをこそ ほしといふなれ

同

5才

遠夕立

川上の 夕立しるく す、しきも こゝにあふれて なかれきにけり

同

蓼

かたくえし 堰の小河 こしくに 野たてはなさく ミなつきのそら

同

夏声

松かせも す、しからすハ あらねとも いはねのミつそ なつの声なる

同

楊貴妃

そのいろの いつかもりけむ まとふかく おひさきこもる ひめゆりの花

同

寄剣恋

つるきたち なのたつかひハ なになれや みにそひてのミ きえぬ面影

同

田家晩夏

水ちかき あかたのさとの 瓜つくり みのやすけにも なつそなかる、

同

ゆふたちも ほとよくふりて うちなひく かとたのさとの 夏ぞす、しき

同

5ウ

螢火近秋

くれゆけハ ほのめきにけり あきちかき かとたのほたる ありとハか

同

水辺月秋涼

みな月ハ なかハなからに 小ふねこく 浪のうへには あき風ぞ吹

同

寄湊恋

なミた河 なかれの末ハ もミち葉の あきのみなどの 浪やた、まし

同

水無月萩のさきたるを

わかやとの むくらのつゆに いそかれて いろめくくさの 秋そあやしき

同

臨水観魚

いけミつも しつかに魚の うかひいて あきとふくれの 風そすゝしき

同

みな月ハかり志賀の山こえして

みな月や しかの山ちハ 谷川の なミの花こそ いまさかりなれ

同

松風如秋

ゆふたちの くも吹おくる 山かせの 松にさせたる あきのぬれ衣

同

返事増恋

かきくらす くものかへしの 山風に ふりそふものハ なみたなりけり

同

寄舟恋

むねハなと あひかたからん よひくの とまりたかへぬ あまの苦船

同

恋不離身

ありとたに めにハ見えねと くもりひの かけこそこひの 心なりけれ

同

夕ぐれに雁のなくを

よみもあへす かりのたまつき かきけちて おつるやいつこ 夕ぐれの空

同

深林人不逢

もり陰に こけのこみちハ 見えなから このミをひろふ ひとたにもなし

同

八月十五夜によめる

なほさりに 月ハみせしと おほかたの 人をしつめて はるゝくもかな

同

十日菊

きのふより けふそまされる きふみて けふみるさくの 花の匂ひハ

同

霜風九月空

わひしらに ましらなく也 暁の 松のしもふく ミねのあき風

同

禁中月

ひさかたの 月の御あそひ いくをれか そてかへすらむ あきのミヤ人

同

陵園妾

ときめきし むかしの秋の 夢さめて まくらにさゆる 東明の月

同

渡雁

萩見つゝ よとちをゆけハ からろおす ふねよりさきに わたるかりかね

同

寄雨恨恋

なみた河 ミかさまされと ふる雨の あしもとゝめす かへる関かな

同

折紅葉

一枝たに もみちにあける 山守と おもひの外に ゆるさゝりけり

同

古都秋風

柴垣の ミやちハふりて 葛花に そてのゆかりの あき風ぞ吹

同

いろかへぬ 松ハむかしの 秋風も ふるきミヤこハ ものそかなしき

紅葉帯霜

もみち葉の いろをハ色と そめなから あやしくしらむ あけほの、霜

同

秋夕情

草のいほの 秋の夕を かなしとも うしともいかて ものはいふへき

同

秋良空

とこよもの 橘におく つゆしも、 いろめくあきの 風そみにしむ

同

たをやめの そてのかさねの 色さへも ふかくなりゆく 秋の夕風

同

秋旅泊

こきはつる 秋のミなどの 舟の上ハ なくさむかたも 浪のうききり

同

秋時雨

まくす葉ハ なにのつみなき しくれをも 恨かほなる 山風ぞ吹

同

7ウ

李婦人

みえなから こともかハさす おもひのミ そらにきえゆく まほろしそ

同

九月空

かきりありと みすくす秋の 心さへ あやなくさわく みねのうきくも

同

犬

しのふれハ よその門もる いぬさへも 心おかる、 よはの声かな

同

汀氷

みきハにハ とりたにもゐす 浪の音も 氷の下の 冬こもる夜ハ

同

秋夕鐘

入相の かねのひ、きに こたへつ、 ちるか尾花か そてのしらつゆ

同

秋月

くさのつゆ おきて、月を 見よとてや いとしも秋ハ よなか、るらむ

同

懐旧

ひとのよの ならひとおもへと なけかれぬ けふハきのふの むかして

同

8オ

秋神祇

柳葉に いなほぬきかけ さとひとも 匂ひさかゆる 神まつりかな

同

惜秋

おいぬとて せめてをしむも ゆく秋も よのことわりの 外ならしをや

同

寄関屋春恋

ひとめもる せきやにたつる を車の めくる月日も かそへられつ、

同

田上霧

かりのこす おくて吹わけ うき霧を はらひもはてぬ 秋の夕かせ

同

漁村秋

うをおとる かのいり江の いとす、き つりハリとのミ 三日月のかけ

同

秋夢

みつくへき ものとハなしに 長夜の ゆめにもゆめを たのミつるかな

同

初冬山家

山さとハ さわくこの葉の おともなく ゆふあさりして とりハいにけり

同

山さとに かりのこしたる 柴くりの もとあらハなる 風そさひしき

同

山さとの ふゆそさひしき もみちハ、 鳥居からして その色もなく

同

名所千鳥

ぬはたまの 黒牛濁の さよちとり 月をし松の かけに鳴らむ

同

時雨驚夢

あかつきの あハれしれとや むらしくれ 恋せぬひとの まくらとふらむ

同

互忍恋

うきながら しのふこゝろの たかハぬを たのミところに こふるころ

同

小柴垣に菊のさきのこりたるを

なほ秋の しめのうちとも 見ゆるかな おくれてにほふ しらきくの花

同

初冬風

冬たてハ いと、ミたる、 しのすゝき 花ハのかせの 吹つくしつ、

同

9才

初冬

さのみなと うちしくるらん かミな月 たちしをしらぬ ひとハあらしを

しくれふり もミちみたれて なかくに 冬のはしめは さひしけもなし

同

稀恋

あふことハ 秋の七日ハ いみつるを いかてあえたる ちきりなるらむ

同

雨中灯

あめさそふ たけのあらしの 打さわき ひかりさためぬ まどのともしひ

同

残紅葉

山かけや 誰あつらへて ひととハ 風のよきたる もみちならむ

同

薄暮思秋

いまさらに おもへハゆかし 色もなく かれふるくさの あきの夕かせ

同

一鳥過寒水

よるなみの なかハこほれる 嶋つとり うたてつはさを しる河風

同

うき妻を なくさめ兼て をしとりハ さやくあしまの 床はなるらむ

同

木枯

おち葉さへ なほもふくなる こからしの 風のこゝろそ あやしかりける

同

寄笠恋

うきことの ありますかゝさ きてもなほ なミたのあめハ せんかたも

同

誂恋

あつらへし のちのこゝろの わりなくて おほつかなさを くりかへし

つ、
同

朝霜

と、めえす わかれしこまの あと見えて あさしも白し かのの棚はし

同

時雨

しくれ二ハ きそひおくれて もみちはの つゆにもかさす わかたもと
かな

同

冬野

ほたでのミ かつく見えて 冬のゝの 夕日あへなく かけくれにけり

同

10才

なき名

こひ衣 かつみにゆるす なかならは たつなもさのミ なけかさらまし

同

とこ夏の巻を

あふみちや とほくたつねし いかゝさき いかにかけたる たこのうら波

同

ほたるの巻

なつむしの ひかりはかりの しるへにハ いとゝこゝろの まとはるゝ

同

残菊

おほかたの 秋のいろかハ つくしわた かさねてにほふ しらきくの花

同

かみな月 いまひとしほの しらきくハ しくれのそむる いろにや有らん

同

野行幸

花とちる ミゆきのつらの すり衣 きそひたちけり のちのあけほの

同

大王の ちかきまもりの 駒並て のちふミあらし いづるたか人

同

寄滝恋

わきかへる なミたの滝の 水々ハ 我ものからに せきそかねつる

同

世にハなと たきのミなわの うき名のミ きゆとしもなく たちになつ
らむ

同

冬衣

山人ハ このはころもゝ ちりのよに たちましハると 炭ややくらむ

同

そてくちの 色をかさねて 降雪の あたゝかけなる 庭の松かえ

同

冬鳥

ゆきふかき ミ山からすの うかれてゝ ゑハみにあかぬ さとのゆふ
くれ

同

刈はてし 岡田にしめも いかるかも きゐて鳴なる 声のさむけさ

同

冬のゝに雲雀の鳴を

かれくさを やくのゝけふり 打靡 冬のそらとも なくひはりかな

同

くさハ根に 春まつへの 朝附日 声をかすめて ひはり鳴なり

同

紅葉のちりたる池二に氷ゐたる

日をへても なほくちはてぬ 紅葉の 秋ハ氷そ へたてなりける

同

ちりうかふ 秋のにしきの ひもかゝミ 風こそけさハ むすひそめけれ

同

11才

海辺冬

ちりかひし あしの花さへ なにハかた 冬ハかせのみ ある、海つら

同

夜神楽

御火しろく 雪の花さへ 打ちりて あくときしらぬ かミあそひかな

同

赤紐の あかつきかけて あそふらし 杜とよもせる 声のきこゆる

同

隔遠路恋

はるかなる 人をこふとて はゆまちの すゝろなるねの なかれつる哉

同

おなしよに ありとはかりを しるへにて とほきこしちの ゆきやけな
かし

独見雪

みつゝたゝ ひとりのにミそ かこたるゝ 椎のはたれの きの白ゆき

同

ひとりして みるに心ハ なくさまて うもれかたくも 雪そふりける

同

寄苔祝

いくそハく 年をかさねて このやとの いはほのこけの 花ハさくらん

同

神のます ミ山の松の さかりこけ なかゝれとのミ よをまもるらん

同

松延齡友

たちなれて ともしミれハ 松かえも おのかちとせを たのみかほ也

同

山初雪

風交ニ けさそふりくる ミやまにハ めつらしからぬ 庭のしら雪

同

寄花懐旧

も、世へし そのよの春に 色もかも をちかへりてや 花の咲らむ

同

早梅

梅の花 なれハかりこそ うれしけれ ふたゝひ春の いろを見すれハ

同

冬かけて しめつるそのゝ 梅の花 こゝろはるなる 色を見せけり

同

蕪

梓弓 はるまつさとに ひくものハ ミとり葉きよき かふらなりけり

同

あさみとり おくしもながら うちなひき あさな夕なに とめるさとかな

同

立春

山からす 鳴てそわたる ひとゝせの ものゝはしめの 春の初声

同

あさミとり 水なきそらも としなミの けさたちかへり はる風そふく

同

としへても 春たつけふの うれしさは たとへていはむ ことのはもなし

同

雪さそふ 松のひゝきも けふといへは 心からなる はるのはつかせ

同

こそこのくれに

さこそよの ことわりならぬ 花紅葉 ことそともなく くるゝとし月

同

12才

除夜

夜をまもる まてこそあらね 厚氷 うちとけてしも ねられさりけり

同

早春雪

さほひめの たつやかすみの 袖すりて 春またさむき あわ雪そふる

同

山家早春

花鳥の いろねもおそき 山さとに はるたつことを たれかつくらん

12ウ

同

七日のひよめる

わかゝへる ものかハあやな としことニ のへのなゝくさ つミとつめ

同

山中家の人々例のことわかなおくられるに

つみはやす のへのわかなハ 春ことに うれしき色を ひとに見せけり

同

七日雪ふりたり六日子の日なれハ

ねの日せし きのふのゝへの はつわかな ちよをかさねて つめるけふ

同

かな

忠礼主きのふ住吉に詣て松をひきてきたりとして

けさ見れハ うつしうゑたる 松の葉に 雪もつものり 庭の

おもかなとよみてみせられけハ

同

春雪晴

さほ姫の かすミのたもと おふハなむ はるれハきゆる 春の沫雪

淡

同

13才

松かえの 花とふりつる あわ雪ハ 春日しもこそ あらしなりけれ

同

鶯遅

うくひすの ものうきほとん 鳴音たに きかはやとおもふを さゆる朝風

同

春霞 へたてはいかに けふも猶 声もきかせぬ たにのうくひす

同

暁梅

うめかゝに あやしや心 さのミなど おもひしむらん あかつきのそら

同

朝梅

いさときも たれゆゑならず 月のこる 梅のこすゑの 鶯の声

同

早春霞

おき浪と をのへの松と たちならひ いつれか春ハ まつかすむらむ

同

またあさく 霞そなひく 春も猶 ミ山の雪の ふかさしられて

同

早春雪

うつもれぬ 声そ春なる あわ雪に 松ハいろなき 庭のうくひす

同

雁ハまた 秋こしかたを かへりみる 心もなしや ミねのしら雪

同

若菜知時

しもさやく をきのかれふを かき分て ちきしるわかな けふやつまゝし

同

八千くさの 春てふことハ 若菜こそ ひとつままれて まつハしるらめ

春の色は けふのわかなに あらハれて 野にも山にも うつりゆくらむ 同

いちはやく 春しるものハ あさみとり のへのゆきまの わかな也けり 同

霞遠聳

吾さとの 雪もけなくに はるかすミ とほ山とほく なひきそめけり 同

朝日かけ けしきハかりハ かすみけり 雲よりをちの 雪のとほやま 同

春たちて いく日もあらねハ あさもよし きのとほやまに かすみたな 同

ひく 春のいろハ またひとへなる 朝霞 八重山とほく かすみそめけり 同

柳糸緑新

春のいろ あらたになりぬ はしりての 塘にたてる 青柳のいと 同

14才

あさみとり 春をいく春 くりかへし 柳のいとハ あらたなるらむ 同

鶯喩客

山さとの ゆきまのミちも 見えそめて ひとなつかしく 鶯のなく 同

うくいすの 声するなへに 柴の戸を 春風ならぬ 人もとひけり 同

十三日節分なりけれハ

ためらひて ことしハ春の たちかへる ミそらの月や かすみそむらむ 同

年の始に東の友たちのもとへ

あしかにの なにハほりえに なまり居て かひなけしつ、と、せへに けり 同

いまハよに わすれ貝てふ ものもあらし なにハのあまの あざりつく せハ 同

ふしつくハ かすめる雪の 面影ハ あらぬ山にも たちそハリつ、 同

うちなひく 色見てしかな 朝日かけ さすかたをかにもゆる春草 同

むさしのや かすみたなひく 小松原 むかしのいろハ いまもみえけり 同

もろともに ふみ見しのへの はるのくさ いたうるハしき 色ハわすれす 同

うこきなき いはねのこまつ 立栄 いと、陰こそ ひろくなるらめ 同

おく山の 正木のかつら くりかへし くりかへしつ、 おもふきミかな 同

としふれハ ふるにつけつ、 むさしの、 おもひてくさそ しけく成ける 同

氷解

みやことり はふきなくなる ほりえ河 ミをのこほりそ とけて流る、 同

早春月

なにハえや かれふのあしの はるの月 いまいくかあらハ かすみはつ 同

へき はるそとハ そらに見えけり 梅ハまた けしき斗の 軒の月かけ 同

恨恋

うらみつ、おもひかへせハ わか身さへ あさましきまで なりにける哉

嶺早蕨

15才

いつしかも もえにけるかな ときしらぬ 松のかけなる ミねのさわらひ

のとかなる 風やしるらむ 柴人に をりのこされし ミねのさわらひ

寄都祝

とのつくり しけきみやこハ さきくさの ミつはよつはに 春風ぞ吹

ものさハに ゆたけかりけり 東人の ミかとをかみに つとふみやこハ

水郷霞

梅か、は そらになかれて たましまや な、せにかすむ 有明の月

ミなかみの 雪けの水の うちけふり かすむ、つたの 柳原かな

幽居鶯

軒ちかき たけになくなる 鶯ハ 人すめりとも おもハさるらむ

うくひすの うらなき声も きかせてん とへかしひとの 春の山さと

梅さけと うたてさひしき やと、てや うくひすさへも まれに鳴らむ

曙霞

15才

ひむかしの 空ハにほひて 明ほの、 山かけくらく たつかすミかな

恋風

おほふねの おもひたゆたふ ほとそうき 恋のミなとに かせまもりして

某の四十賀に

ことしより 老の山口 わけそめて ちよのしをりハ 君のこさなん

青山正俊か四十賀

はりまのや ミねにくもゐる 青山の 松のちとせハ 君そしらまし

梅

うめの花 めつとハかりに ゆき過て 吾袖のかに おとろかれけり

曙鶯

あけほの、 梅のかをりに むせふらん かすミのをちの 鶯の声

恋風

をりくハ ミさを、まもる 松にさへ ものなやましの 山風ぞ吹

毎年登梅

16才

月のミか はるてふ春に うめの花 めてのつもりも 老となるらむ

いろもかも こそにかハラぬ 梅の花 さのミハなに、 めつるなるらむ

春草緑

ふるよもき 根をも絶すて 山陰の 壘田のくろそ わかみとりなる

かまと山 けふるみとりハ 春の日に もゆるみくさの うつるなるらむ

為君事容飾

あさ毎に わかるとるねやの ますかゝみ あたしひとにハ ミえしとそおもふ

梅さかりなるやとにまらうときたり

ものなへて ふりゆくやとを さく梅の おもておこしに ひともとひけり

同

ふるさとの うめのいろかも しる人に しらるゝはるの あれハありけり

同

梅香薫袖

ことならハ ちりなんのちの おもひてニ わかそてかれす 梅かをらなん

同

江上春月

ミしま江や 浪のまに〜 月ミえて あしの若葉の 露そかすめる

同

難忘恋

きミゆゑに おつとおもへハ 明くれの わすれかたミそ 涙なりける

同

春風夜芳

春風ハ そらにさそひて 梅かゝを 月のかつらに かさんとやする

同

いくさとの 梅のこすゑを 過てきて 枕とふらん よはの春かせ

同

山畑

山陰の はたのしゝかき たかけれと こえてもをらん 春のくゝたち

同

閩正月子日

うくひすハ 耳ならしても けふも猶 はつねののへと いふへかりけり

同

余寒

はるのよも なほおくしもに うつみひの あるかなきかに きえかへり

つゝ ささかへる ゆふへの雨の 雪ませに 花の名たての きさらきのそら

同

帰雁

かへるかり きりたつ秋の おもかけを 月にかすめて ミねこゆる也

同

かへるかり ミちゆきふりに 鳴すてゝ あきをたのむの 声そはるけき

同

月前柳

ゆく月ハ くもりもはてす 青柳の ミとりにかすむ 春のよのそら

同

うちなひく ミとりのいとこの あや見えて 柳にかゝる 春のゆふ月

同

花まつ比あめちかけなれハ

あめちかき ほともしられて 春山ハ むらさきたちて かすむ夕くれ

同

かそいろと いふなる雨を まちいそく さくらかえたも かすむはるかな

同

花ゆゑハ けふハまたるゝ 春雨の いとはるゝにや わりなかるらん

同

春日山行

おほゝしく よもハかすミて のほりたち いさみの山は ことにし有けり

同

われかとして とふらハましを 山ゆけハ ところもわかす とりそよふなる

同

17才

17ウ

かすみてハ みるめなしてふ 海ちかき 山路なからも 心ゆきけり

同

紫蓮尼のいほに盗人いたりとて歌よみて見せられけれハ

しらなミハ たちやよりけむ としふれと なまめかるてふ 海人のいほ

とて

同

春月朧々

山川の きよきなかれの 底にさへ 春のさかとして 月そかすめる

同

角法師の花につけて はるさめに そほつさくらの

はなの色を みせはやきみに つゆなからたに とよめるかへし

いたづらに なかめハすてし ふりはへて こてふにゝたる はなのへの

つゆ

同

はるさめに ぬれきぬきせて あたらしき 花のえたをも 折てけるかな

同

蛙

山川の ミくまのすけの ねもさやに かハつなく也 かすむよころも

同

18才

朧月

春のよハ あらしもたえて 九重の とのへの月の かけそかすめる

同

山寺にやとりたる夜

かたしきの まくらにちかき たきのいとハ ゆめもむすハぬ ものにそ

ありける

同

水辺落花

みかはミつ さそひいてけり くもの上の くもときのふハ 見えしさく

らも

同

鳴上桜

むれつとふ あまのさへづり のとかなり おきのこしまも さくらさく比

同

野亭桜

かりそめの のへのいほりと 見えなから ふるきのさくら さきをり

けり

同

柚山桜

宮木ひく 柚山かづら なかきひも あかぬさくらの 花のいろかな

同

暮山雲

柴人の かへる山ちハ 入日さし とよはたくもの 色そくれゆく

同

ものへゆきける道にて

ふるさとに たちにしかりの なこりニハ すゝな花さく さとのあらをた

同

鶯

さかりなる 木ことの花に あくかれて ところさためぬ 鶯の声

同

夕春雨

苗代の はるの夕の あまころも たみのゝしまは かすミ果けり

同

遠尋山花

人こそハ ものゝたよりと いふめれと とほ山さくら たつねてそ見む

同

こしかたの 花ハかすみに うつもれて またみぬ山に かをるはる風

同

中春

わかやとの いけのゝろも のとかなる 春のもなかに かはつなくなり

田うつ

春ことに うちかへしても かへしても すゝなの古根 花さきにけり

19才 同

水ぬるめり

ぬるむめり 井杭にかゝる かけろふの そらにミたる、 春の川水

同

桂陰の花見にゆきて題をさくりて

こと木々ハ 皆うつもれて 五百本の 花しつかなる にはのおもかな

同

花間月

ちりそめぬ 花をこのまの かけかすむ 月のみやこの 人にミせはや

同

春のよの 月のかつらの 花衣 かへすゝも たちうかれけり

同

女どものたちまひ今やうたひなとしけれハ

うちふるや あまつをとめの そての上に 花の雪ちる かつらかけかな

同

八重ひとへ さかり久しき 花かけハ ものおもひしらぬ 所なりけり

同

夕つかた

ゆふつくひ ふかくかすミて 庭さくら こすゑおもけに 見ゆる色かな

同

をりゝハ 花の梢をうこかして あかしめさせぬ 庭のはるかせ

同

またのひよろこひひやるとて

さかりなる 庭のさくらの おもかけハ うれしき色を けふもみせけり

同

けふハあめのふりけれハ

こん春を かけて契りて ふるあめに うつろふ花を さそをしむらん

同

柴門人不到

たれならて おとするものハ 松かけの 柴の戸かろき かとの朝風

同

心静酌春酒

春の日ハ むかふこゝろも うらゝと かすみにゑへる 夕くれの空

同

はるの風 しつかにゑへり うくひすの ねくらのさゝと すゝめやハせし

同

枕塵

かゝみさへ ちりみくもれり ものうくて はらハぬねやの 枕のミかは

同

20才

寄綾恋

そてくちの あやのいろめに まよふかな をすのすきたる 吾こゝろより

同

ひとむらに おもひさためす いろこのむ ひとのこゝろの あやのそめ

同

名所橋

わかれこし みやをとほミ たひゝとの そて三州ひつ川の はしとい

同

亀のうた

かめのこの うまこのすゑの 末の子の すゑのよはひも きみそかそへむ

同

寿の字を八十四の女のかきたるに

よね山ハ ちよの坂口 ほともなく わけのほるへき しをりなるらむ

同

霞中花

みにきつる 心もしらす 春霞 をのへのはなを たちへたてけり

同

けふもまた たちてゝたどる はる霞 はなにかゝらぬ 山のはもなし

同

20ウ

春崎

あまのかる ミるめハいと、 とほつあふミ あらいそさきを かすみこ

同

めけり すみよしの ミさきにひろふ 蛤の かひある春の あそひなりけり

同

春橋

いは、しの まちかくみえし 水上も かすみとほき 春の山河

同

かきつはた 花さく沢の やつはしハ あめのくもてに かけわたしけり

同

契沖阿闍梨の真蹟にそへたるうた

あしの葉の ちりのまかひも 見えぬかな なにハたかつの 水くきのあと

同

山家夏来

山さとの かき外の柳 うくひすの かよひちくらく 夏ハきにけり

同

かせをまつ 夏こそきつれ 花ハ皆 春のたむけの 山かけの里

同

貴賤更衣

よのさかと なかくみしかく たちかふる そてにもなつの しられつる哉

山さとも みやこもおなし 夏衣 色こそかはれ たちかへりけれ

21才

同

寄漁父恋

ふなはたを たゝきてうたふ ひとふしニ うらみてけふも かへりつる哉

同

おくあみの うきにたえねハ いまハわか みをうみわたる 海士と来て

同

杜若

夏もや、 ちかきとなりの かきつはた すゝしきいろに 咲そめにけり

同

春のくれに山路をゆく

わか葉さす たにをへたて、 いは、しの まちかき夏を とりやよふらん

同

春のゆく かたやいつらと ふちなみの かゝる山ちに まよふころかな

同

すをへたてゝかたる

たそかれの ものゝまきれを たのミてそ いやすのそよと ことかはし

同

ける としをへし こひのしるしニ おなしくハ をすのうちをも けふゆるさ

同

なん

21ウ

暮春夕

日をふれハ かすみもいまハ うすゝみの ゆふくれおそき 春の山のは

同

雨中藤

いろ見えて おのつからにも 藤並の 花のつゆちる あめそしつけき

古井蛙

おふなく 春ハしれとも うもれるの ミつからうしと なく蛙哉

こゝをせと よの春しらて とし月を ふる井の蛙 声つくすらん

寄武士恋

はかなしや こひのやつこに せめられて たむかふわさも なき心ちせり

ひたりての わかおくのてに とる者の つかのまたにも あふよしもかな

つまこもる やとにそまよふ ものゝふの 道をわりなく ふミたかへてハ

嶺郭公

ほとゝきす ミねのこたまに なく声も 二むら山の 明かたの空

さつきやミ をくらのミねハ 雨雲の たちまよひつ、 なくほとゝきす

いたづらニ おもひそわたる 浪さわく そてのみなとハ ふねもよりこす

ゆめちにハ なにのさハりの あれハかハ かへすころもの しるしな

らん すたれをへたてゝかたる

よしすたれ はかなくかくる ひとことも あハれみにしむ 夕風そ吹

となりにことひく

あしかきの ひとへハかりの へたてにも 心つくしの ねそなかれける

庭草滋

たかために よもきかもとの みち分て つゆはらふらむ にはの朝風

しけりあふ にはのよもきの うもれ水 ひとかけさへも みえぬいほ哉

あめのゝちほとゝき [す]をきく

あめはるゝ たミのゝしまの ほとゝきす あしの下ねに 鳴てすく也

たちはなの つゆうちはふき ほとゝきす あまゝをよみと けふや鳴らん

たかうな

おひそひて おやにそむかぬ たけのこハ おのつからにや ちよもたる

あふことハ さらてもとほき なけきさへ いとゝくはゝる 月そくるしき

隣泉

かきちかき いつミ吹こす ゆふ風ハ あきのとなりと おもほゆるかな

わきかへる となりのいつミ あまり有て かきほすゝしき 夕風そ吹

夏衣

山丹

かららかに こしのをとめか おる布の にはひすゝしき 夕風そ吹

垣まみに おとろかれけり はしたなく あれたるやとの 姫百合の花

採早苗

23才

松かけに ふねさしすて、あまをとめ さなへとるらん あの、ミなと田

同

早苗

入日さす すそわのをたの 若苗に 吹つたへけり ミねのまつかせ

同

夏眺望

おほよとの うらのみるめの す、しさに いせをのあまと ならむとそ
おもふ

同

庭樹結葉

にはのおもに 月八もらねと ほと、きす こてふに、たる なつこたち
かな

同

五月雨晴

さミたれの あまかなりつる ものうさも はれてた、さす あさひかけ
かな

同

寄池恋

さしてしる よしもなミたの 水たまる いけのこ、ろの ふかさあさ、を

同

庭夏月

水そ、く にはのをくさの つゆのまに あくるす、しき 夏のよの月
23才

同

棟如雲

花あふち くもと見そめし あしたより はれまもおかぬ さミたれのそら

同

つれくの なかめはれゆく 吾かと二 ゆふあるくもハ あふちなりけり

同

洲芦夜雨

ふり過る すさぎのあしの むら雨に 月のやとりの つゆそミらる、

同

納涼

あしかげや す、みかてらに ふねよせて あく時しらす つりをしそする

同

ミつきよき 岸におりて かり衣 ひもたにさ、て あそふす、しき

同

六月祓

わか国の なほきてふりそ しられける 青ミな月の けふのミそきに

同

なにハの海 なみにた、よふ 青菅の すかしくも はらふけふかな

同

夏動物

さとわたの ちまちいほ町 すきハて、 牛はなちかふ 夏くさのハラ
24才

同

夏の、の くさのしけミに ふすしかの た、ひとつこそ あハれ也ける

同

野郭公

ほと、きす けふりもたかし きみかよの とふひの、へに いまそ鳴なる
きみかよハ えて ほと、きす

同

山とほき あらの、ハらの ほと、きす まよふかくもの ちまたにぞ鳴

同

夏河

たかミそき せ、にたてたる 夕浪の よるへす、しき 河やしるかな

同

吹かせハ さすかにす、し あつきひに さ、れふミわたる 夏の山河

同

夏夕

あきつはの うすきそてさへ ものうさに ぬきてかせまつ 夏の夕くれ 同

夏の日になえふすくさも しらつゆの おきかへりつ、 なひく夕かせ 同

蓮

ゆりこほす ひろはのつゆの 玉はちす いけのこゝろも きよく見えけり 24ウ」 同

朝日さす おまへのいけの はなはちす うすくれなゐの いろそたゝよふ 同

葵

をくるまの をすのすきかけ なつかしく かけならへたる あふひくさかな 同

夏朝

むら雨の すきゆくのきの 朝しめり なほいふせくも のこるかやり火 同

うちなひく 萩のわかえの たわくくに 朝つゆおびて あきをまつらん 同

夕顔

はしたなく みゆるものから すゝたれぬ しつかわらやの 花のゆふかほ 同

ゆふかほの はなのほひハ それなから をりにたちよる ひとかけもなし 同

氷室

あまつたふ ひむろの山の 松かけハ ゆくてのそても すゝしかりけり 同

夏の上月おもしろし

月きよみ をりてかさせと うつろハぬ しものはなさく 庭の夏草 25オ」 同

新竹

よきほとに 葉もほころふる わかたけの かけこそ夏の ふしところなれ 同

舟にのりてものへゆく

わかふねを きしこきゆけハ 松原の うこくとみえて とほさかりけり 同

林中蝉

たゆみなく 声をあはせて 谷河の 水もはやしに せみそなくなる 同

なくせみの 声そすゝしき むらさめの くものはやしの つゆにむせひて 同

日をさふる はやしのかげの こけむしろ とつくしよしと せみの鳴なり 同

夏想

いもかひく をけの夏その あさましく おもはぬひとを ミたれてそおもふ 同

吾心 やみにまよふを しまつとり うたてもひとの あらひゆくらむ 同

ちかくてとほきもの

むかひてハ ちかのしほかま ちかなから おもへハとほき ミちのおくかな 25ウ」 同

あまの河 もミちのはしハ かけなから としのわたりそ はるけかりける 同

みきひたり ちかきまもりと いふめれと あふけハたかき 日のみかけかな 同

しきたへの まくらのゆめの おもかけハ たゝそれなから 明るよはかな 同

山さとハ ちかきとなりも 朝夕に くものやへかき 立へたてけり

同

めにちかき よのことをさへ わかミ、ハ おほろのしミつ くみまよひ
けり

同

しらくもの こたふる声ぞ はるかなる 吾ゐるてらの 入相のかね

同

八重山吹

いはぬいろに やへさきにほふ 山吹も われとひとしき 春やかさねし

市岡猛彦

恋

ものゝふの たけきわかみと おもひしハ こひせぬほとん こゝろなり
けり

同

神祇

御剣を いくあつたの みやはしら よにぬけいて、 たかくたふとし

同

26才

蚊遣火

みやまにと おもひたつまで かやり火の けふりいふせき よにこそふ
けつ、

同

月前水鳥

おのか名の をしとおもふよの 月かけ二 ねてハあかさぬ 声そきこゆる

同

野月

夕きりを はらふるなのに すむ月も やとこそなけれ つゆの秋風

同

立秋暁

みにしミて おとろかれぬる あかつきの かねのひ、きや あきのはつ風

同

春虫

はふむしの もとのつらさ、 とふてふハ はるやむかしの ゆめになすらむ

同

余寒

梅かえハ 風のミさえて たきもの、 かこそとにほふ 春のうつミ火

同

26ウ

なてしこ

くれかけて たれをまつとも しらつゆの たましくやとの とこ夏の花

同

河内国人岩本周道かはしめてとふらひきて たつねこし

さつきのそらの あまくもに はつねきかせよ 山ほと、きす

とよめるかへし

たつねこし かひもなこやの さとひたる 声をきくらん 山ほと、きす

同

又 わかそてに なれてをとめん 橘の き、しにまさる やと

のほひを とよめるかへし

ことのはの はなのほひハ ときしくの かくのこのみに あまるうれ

同

堤

水きよき 川そひつ、み す、しさに ゆきかふひとの あしそよとめる

春門

しからミ

いかはかり なミのしからみ よせかけて かくしもそての す、しかる

同

水風涼

うちなひき ミくさ花さく 河曲ハ 秋をうたかふ ゆふ風ぞ吹

同

夏によむしなく

27才

あきのよの なかきおもひを 夏くさの したねにむしの いまよりそなく

同

蓮

はすのいとハ むすひもとめす ひろはより ひろ葉につゆの たまうつ
しけり

同

初秋薄

我がとの 秋のしるしの はたすゝき たかくさして、 まねきつるかな

同

七月立秋

みな月ハ なかれもはてす ミそき河 はやくあきたつ 浪の白木綿

同

夏のはて

おほぬさの よるせも見えて 夏の日の中 なかれよとまぬ 河やしるかな

同

行客船已遠

わかれてハ ふねのうへニも かへりミる やまとしまねや はるけかる

同

夏暁

あかつきハ ミねのほくしを さしすて、 くだるかさわく むさゝひの声

同

河水流清

月も日も とゝこほりなく なかれゆく 水の心の きよき山河

同

水草の花さけり

はしハあれと おりてわたらん 打なひき こなき花咲 さとの中河

同

夏のひハ をたのなかゝは せき分て ミつもあさゝの 花さきにけり

同

夏によむしなく

このよころ 庭のをくさに つゆかひて 我まつむしの 声そきこゆる

同

晩蟬

吹おろす うらての山の 夕風に すまふかせミの もろ声になく

同

すまのうらに秋の月きよくすみわたりたる

秋のよの 月のよころの 松風を いかにくくらむ すまの浦人

同

湖水連雲

ともにたつ ものなれハにや 水うミの くもとなミとは つゝきたるらむ

同

内心如夜刃

ゆるされぬ をとめの笑の まゆなれや おもふこゝろの ほとをしらねハ

同

萩風

風ふけハ むしもしはしは 声やめて 人をうたかふ 庭の萩原

同

聞虫

ゆふ月夜 けしきそへけり なくむしの 声もさかりの つゆのくさむら

同

新月

くもはるゝ 八重の山なミ あさやかに かすよむハかり てれる月かけ

同

風生竹夜窓間臥

同

くれたけの よ、し月よし 風もよし こよひは□□ ふしよかるへし

同

しのひてた、く

28ウ

しのひつ、 た、くいたとを き、しりて あなかまとたに いふひとも
なし

同

くひなにも おとる吾身の ちきりにて た、きり□□□□ いもか、とかな

同

山さとにきりたてり

し、かきに きりのまかきを ゆひそへて たちいてんそらも わかぬ山里

同

朝霧

あり明の 松にこまれる 秋きりの たえまも見えて 朝風そ吹

同

夢中逢恋

ゆめちにハ さはるともなき あふ坂の せきをうつ、に ゆるさ、るらむ

同

初秋薄

井の上より あきこそかくれ ミつひきの いたうちなひく しの、小薄

同

春草

よきほとに なひきそめけり わかやとの てふのしをりの 庭のわか草

同

水辺稲妻

みなそこに いるかと見えて いな妻の ひかりなかる、 よはの川つら

同

秋夜増恋

ひとりねの 秋はたさむき つゆならて よひくことに まざる吾恋

風いたくふく夜

同

吾夢を よはのまくらの 山風の さそふはなにの かひかあるらむ

同

雨中聞鹿

さをしかの 声さへあめの しめやかに ふるよはことに 秋そかなしき

同

初秋

つゆむすふ しつかわたの はしりほの ほのへよりこそ 秋ハきにけれ

同

山家眺望

をりくハ 山のいほりを たちいてて めをもくもゐの よそにやる哉

同

まれにこし ひとをおくと 山ちより 海のみるめも けふ□かりけり

同

親鸞上人五百五十回忌

はちす葉の ひろきみいけの 心より よにたちいて、 にほふ花かな

同

月照海辺

よふねこく いせをの海人の そてさへも さやかにてらす 秋の月かな

同

くたけちる いそわの浪の しらたまハ ミなから月の 光なりけり

同

深山月

おくやまの まきのいたとも 秋ハた、 さ、て月まつ よをかさねけり

同

そ、ろなる そてのつゆかな おく山の まきの葉にほふ 秋のよの月

同

八月十四日夜

いつしかと としのひとゝせ まつよひの おもてふせなる そらのうき
くも 同

あまくもハ ふかけなからに さすかなる 月のよころの そらそいふせき
同

仲秋無月

ほのかにハ つゆもにほひて あめはれぬ くものうへゆく 秋のよの月
同

かりかねハ さやにきこえて 秋のよの 心つきなく はれぬそらかな
同

30才



Kansai University
Library Forum